

トピックス

第1回大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウム開催 協定大学副学長会議・公開講演会・同窓会をバンコクで開催

クローズアップ
世界言語研究センター



目次

トピックス	2
クローズアップ	4
役員室だより	8
ナウスペシャル	18
キャンパスニュース	20
表彰等	43
人事	47
インフォメーション	48
海外拠点だより	52
交流協定大学	54
クラブ&サークル	55
トピックス	56



表紙写真：懐徳堂旧址の碑

大阪大学が精神的な源流としている懐徳堂の跡は、現在、日本生命保険相互会社本社（大阪市中央区今橋3丁目）になっており、ビルの南壁面にその由来を示す顕彰碑が建てられています。この碑は、重建懐徳堂の設立を記念して大正7年に建立されたものです。

表紙デザイン：株式会社ココティエ

第1回 大阪大学21世紀



協定大学副学長会議・公開

大阪大学バンコク教育研究センターでは、10月31日(金)から11月1日(土)にかけて、鷲田清一総長、武田佐知子、辻毅一郎両理事・副学長の来タイを得て、三つのイベントをグランド・ミレニアム・スクンビットホテルにて開催しました。

31日には、東南アジア大学間学術交流協定大学副学長会議を開催しました。インドネシア(1:カッコ内は大学及び機関数)、フィリピン(3)、タイ(7)、およびベトナム(2)の計13大学(本学を含む)、1機関からの参加がありました。この副学長会議は、大学間協定をより実質的なものにするため、初めて開催されたもので、本学をはじめ協定大学の国際交流の理



副学長会議

懐徳堂シンポジウム開催

第1回大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウム「地域と大学と一緒に考える“まち育て”」が、大阪市中央公会堂において10月16日(木)に開催されました。

シンポジウムは、武田佐知子理事・副学長の挨拶のあと、第1部は、作家で地域雑誌『谷中・根津・千駄木』編集人の森まゆみ氏による基調講演「小さな雑誌で町づくり～東京の文化遺産を守り、活かす」で始まり、続いて行われたパネルディスカッション「大阪で学ぼう 大阪を学ぼう ～未来に引き継ぐ“まち”の記憶」では、財団法人サントリー文化財団上席研究フェローの佐藤友美子氏、大阪市ゆとりとみどり振興局総務部集客プロモーション担当課長の花田公絵氏、立命館大学教授で雑誌『上方芸能』編集代表の森西真弓氏、本学総合学術博物館の橋爪節也教授が登壇し、本学名誉教授で関西学院大学大学院教授の宮本又郎氏がファシリテーターを務め、大阪の歴史を振り返りつつもこれからの大阪を元気にするためにどうすべきか活発な議論が交わされました。

また、第2部では、社会学連携の例として2つのプレゼンテーションが行われ、NPO法人チャイルド・ケモ・ハウス理事の田村太郎氏による「チャイルド・ケモ・ハウスの試み～小児癌の子どもたちのための専門病院設立を目指して～」が、また、コミュニケーションデザイン・センターの平川秀幸准



教授による「大学の使い方教えます～サイエンスショップってなに？～」が発表されました。

続いて行われたタウンホールミーティング「大阪の“まち育て”とりあえず、一緒に考えましょ」では、鷲田清一総長及び武田理事・副学長を中心に登壇者全員が加わり、参加者と一緒に活発な意見交換が行われました。

当日は、在阪企業関係者や近隣自治体職員、文化NPOの関係者、本学関係者、一般参加者など約160名もの多くの方の出席を得て盛況のもとに終了しました。

講演会・同窓会をバンコクで開催



公開講演会

念を相互紹介すると共に、実施している留学生招へいプログラムや学生派遣プログラムの情報の共有化を図りました。今後もこのような会議を開催し、学生のモビリティの活発化を図りたいとの結論をまとめました。夕方には総長主催の夕食会がもたれ、盛況のうちに終了しました。

翌1日には、第3回目の大阪大学バンコク公開講演会“続々感染症から私たちの身を守る”を、微生物病研究所がタイで運営している日タイ感染症共同研究センターとの共催で開催し、会場がほぼ満席となる183人の来聴者が熱心に聴講しました。鷲田総長と隈丸優次日本国特命全権公使の挨拶の後、大石和徳大阪大学教授がタイで知っておくべき一般的な感染症について、感染症の現場でご活躍の感染症研究所・倉根一



同窓会

郎部長がデング熱について、日本学士院賞受賞者である北海道大学の喜田 宏教授が鳥インフルエンザとインフルエンザについて、それぞれやさしくお話いただきました。

同日の夜には、大阪大学と大阪外国語大学の統合を記念して、大阪大学バンコク同窓会と旧大阪外国語大学咲耶会バンコク支部との合同同窓会が開催され、118人の日本、タイ卒業生が集まりました。同窓会に先立ち鷲田総長と赤木 攻元大阪外国語大学長とのショートトークがありました。白川 功名誉教授、古城紀雄前留学生センター長、宮本和久前バンコク教育研究センター長も大阪からかけつけてくださり、短い時間ではありましたが思い出話などに同窓生一同、楽しく過ごしました。

(52～53ページに関連記事)

世界言語研究センター

～世界の言語と言語を基底とする地域の文化・社会に関する高度な研究のために～

Research Institute for World Languages

世界言語研究センター副センター長 河野 彰

本センター設立の経緯と現状

大阪大学世界言語研究センターは平成19年(2007)10月に大阪大学と旧大阪外国語大学の統合のシンボルの一つとして、新たに箕面キャンパスに設置された組織です。その目的は、大阪大学世界言語研究センター規程第2条に謳われているように、「世界の言語と言語を基底とする世界の文化社会について研究を行い、その成果を大阪大学全体の教育研究に活用するとともに、社会のニーズに応える教育研究プログラムとして展開すること」です。本センターには、各言語や地域の専門家である55名の日本人教員と27名の各言語のネイティブ教員および各関連プロジェクトを担当する特任教員、特任研究員さらに世界言語研究センター事務部所属の職員など、総勢116名が所属しています。

世界には、政治的、社会的、文化的、また現在の国際情勢や環境問題の観点からも重要でありながら、その言語や言語を基底とした文化・社会の研究蓄積がまだ十分でない国、地域、文化圏があります。世界言語研究センターは、世界中のいかなる言語・地域・文化も同等の価値を有しているとの理念から世界の言語研究を行い、それら言語を基底とする様々な社会・文化の実証的で堅実な研究を行います。

また大学院生、学部生に対する教育も本センターの重要な使命で、その研究成果と語学教育の蓄積と経験を生かして、本センター教員は大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻および外国語学部の25語専攻の授業、全学共通教育の授業も担当しています。



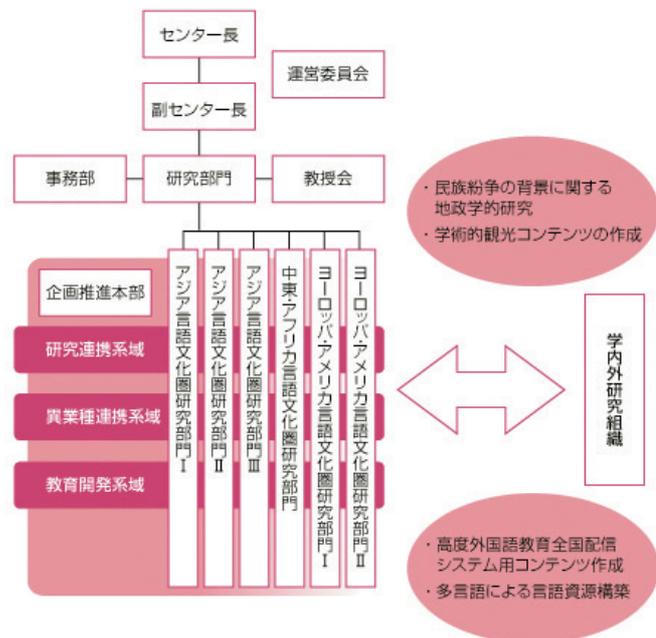
世界言語研究センター教職員

RIWL

本センターの組織

本センターは各教員が所属する6つの研究部門と地域横断的な研究を推進するための3つの系域から成り立っています。6つの研究部門は世界のほぼ全域をカバーしています。また3つの系域は次のような目的のために組織されました。

- (1) 研究連携系域 他研究科あるいは他研究機関との研究面での連携協力を進めます。
- (2) 異業種連携系域 他言語、e-learning、観光などのテーマで関連事業者、JICA 等との連携協力を進めます。
- (3) 教育開発系域 世界各地の言語文化教育に関わる教材、教授法、言語教育の到達度評価など教育デザインの方野で開発を進めます。
また企画推進本部が全系域を統括し、全体的な視野から本センター事業の企画・運営を担当しています。



世界言語研究センター組織図



言語コンテンツ作成の一例

本センターのプロジェクト

現在進行中のプロジェクトに次のものがあります。

- (1) 「高度外国語教育全国配信システムの構築」

言語コンテンツ作成委員会

本センターは、大阪大学サイバーメディアセンターおよび言語文化研究科との連携の下に立ち上げられた「高度外国語教育全国配信システムの構築」プロジェクトにおいて、言語コンテンツ作成委員会を構成し、マルチメディア教材作成を進めています。平成19年度にはウルドゥー語、トルコ語、アラビア語教材の作成が進められました。その他の言語についても現在、教材作成が鋭意進行中です。

(2)「民族紛争の背景に関する地政学的研究」

統合以前の大阪外国語大学における種々の研究プロジェクトが、本プロジェクトへと発展してきました。本プロジェクトの目的と目標はおよそ次のようなものです。

1. 深刻な民族紛争が起き、世界と我が国の安全保障や経済の総合的な発展にとって重大な地政学的なリスクを構成するにもかかわらず、我が国での研究の蓄積が乏しい中央アジア、アフリカ、パレスチナ、旧ユーゴなどの地域を対象に、民族紛争の言語・文化的背景を研究する新たな分野・領域の開拓を目的とします。
2. 本学の研究者を核とし、当該地域の言語・文化を研究する国内外の研究者と連携して、紛争地域の言語・文化について基礎的な研究を進め、我が国における研究の空白を埋める基礎を構築することを目指します。また本学が全世界にもつ学术交流のネットワークを活用することを通じて、当該地域に関する世界の代表的研究者を招聘し、グローバルな研究交流と共同研究を推進し、多様な形

態のシンポジウムや公開セミナーなどを開催して、その成果を社会還元します。

本プロジェクトに携わる専任教員、特任教員が協力して、「中央アジア」、「アフリカ」、「パレスチナ」、「旧ユーゴ」、「複合領域」といった地域・分野ごとの研究会を発足させ、研究会や国際シンポジウムなどを開催してきました。またその成果を報告集として刊行しました。



刊行された国際シンポジウムの報告集

(3)「社会人を対象とした学士レベルの 外国語教育プログラムの提供」

現在、社会のあらゆる分野において進化するIT環境の中で、実務的教養としての外国語による新たな情報コミュニケーション能力が求められています。こうした社会的ニーズに対応して、外国語学部が蓄積してきた言語教育のノウハウと世界各地の文化研究の成果に基づき、社会人の個性、能力の育成やキャリア形成に対応した、英語、中国語、ベトナム語に関する情報関連言語コンテンツを活用した、学士レベルの新たな外国語教育プログラムの開発を進めるために、平成20年度より、外国語学部と協力して、外国語学部の正規の専門科目として、授業を開設しました。また放送大学との間に単位互換協定も締結されました。平成20年度第1期の授業は無事終了し、現在は第2期の授業が進行中です。それ

にともない授業で使用するマルチメディアコンテンツの開発・作成も継続しています。



社会人プログラムの授業風景

Research Institute for World Languages

本センターのその他の活動

本センターは、前述のプロジェクト以外にも、さまざまな活動を計画しています。

最近の活動としては、10月28日から30日にかけて世界言語研究センターと工学研究科の主催により、吹田キャンパスのサントリー記念館5階メモリアルホールにおいて「世界の文化講義」と題し、南アジアの文化、アラ

ブの文化、東西アフリカの文化について、3日間の連続講演会を実施し、工学研究科の院生、学部生を中心に延べ120名を越える参加者がありました。

今後は、さらに語学教材シリーズの作成やあらたな研究プロジェクトの立案・協力など、本センターの特色を活かした事業を進めていく予定です。



「世界の文化講義」での講演風景



スウェーデン留学フェア

この・あきら

1976年上智大学大学院外国語学研究科言語学専攻修士課程修了。大阪外国語大学講師、助教授、教授を経て、現在、大阪大学世界言語研究センター教授、副センター長。専門はポルトガル語学。

プロフィール

役員室だより

2008.12 Vol.27

大学の動き

「大阪大学グラウンドプラン」「大阪大学活動方針2008」の策定

現執行部において、5月から検討してきました「大阪大学グラウンドプラン」と「大阪大学活動方針2008」をこのほど策定しました。グラウンドプランは大阪大学の将来に向けての基本となる構想、活動方針2008はその基本計画となるものです。大阪大学はこの二つを軸に教職員、学生等が力を合わせ、大学の諸活動を展開し、研究、教育、社会貢献の三つの使命を果たしてゆくこととしています。



「大阪大学グラウンドプラン」(右)と「大阪大学活動方針2008」

第3回経営協議会を開催

12月2日(火)に、第3回経営協議会を中之島センターで開催しました。学外委員11名、学内委員12名が出席し、2時間にわたり活発な意見が交わされました。意見交換では、今回、「大阪大学の産学連携活動の新たな展開」「大阪大学における人材育成の期待と評価」をテーマに設定しましたが、とくに企業の立場から見た大阪大学の取組み、学生の教育などについて大学への意見、要望が出されました。



各室の検討状況

総合計画室

第二期中期目標・中期計画の検討

第二期中期目標・中期計画については、今年5月に次期中期目標・中期計画検討ワーキングを立ち上げ、同ワーキングメンバーが中心となり作業を進めていますが、このほど、第一次案を策定しました。現在、この第一次案に対する意見を各部局に照会中で、来年1月には、その意見を踏まえた修正を行うなど、平成21年6月の文部科学省への提出に向けて策定作業を進めています。

学内措置による組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による組織整備として、11月の役員会で次の事項が認められました。

- ・学内共同教育研究施設の設置（平成20年12月1日）平成25年3月31日まで
ナノサイエンスデザイン教育研究センター
- ・理学研究科附属教育研究施設の改組（平成21年4月1日）平成31年3月31日まで
分子熱力学研究センター 構造熱科学研究センター

緑のデザイン賞「緑化大賞」を受賞

豊中キャンパス東口環境整備計画が第19回「緑のデザイン賞」の「緑化大賞」に選ばれました。この賞は、財団法人都市緑化基金と第一生命保険相互会社の共催により、地域社会の質的向上を目指し、全国から新たに提案される緑化プランを募集し、優秀なプランに対してその実現のための助成を行うために設立されたものです。



豊中キャンパス東口環境整備計画 パース（案）

豊中キャンパス東口環境整備はキャンパスマスタープランの発展形として豊中キャンパスの東口のバリアフリー化、傾斜地の公園化などを目的に、キャンパスデザイン室¹・施設部により計画が進められてきました。

豊中キャンパスの正門・阪大坂に次ぐ新たなキャンパスの顔として、道路との高低差約6mのスロープ化、および豊中市側斜面の公園的整備を行う予定です。

基礎セミナー「キャンパスデザインプロジェクト²」で学生と地域住民の意見交換を行い計画に反映させたり、計画地周辺の通行量を調査した上で宮山町自治会や柴原まちづくり協議会と協同で、横断歩道設置要望を豊中警察に提出したり、豊中市の道路整備計画・敷地境界斜面の整備計画と協同検討を行い、隣接部分を豊中市に継続整備してもらうなど、学生教職員・地域住民・行政・警察と協議しながら、かつ敷地境界を越えた考えをもって設計を進めてきました。

平成21年3月までにスロープとその周辺部分が完成し、その後豊中市によって隣接する斜面部分の公園的整備が行われる予定です。

今回の受賞により大阪大学で整備予定の植栽の一部が助成されることとなりました。

1. キャンパスデザイン室の活動については、阪大NOW2006年4月号をご覧ください。

<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/press/now/pdf/now89.pdf>

2. キャンパスデザインプロジェクトは、フィールドワークを通して生活環境や知的創造環境としての個性や問題を読み取りながら、魅力的な環境を継承したり、創り出していくためのデザイン活動を行う、キャンパスデザイン室の教員による授業です。

教育・情報室

ソフトウェアの包括契約

情報基盤推進本部での検討結果に基づき、以下のようなソフトウェアの包括契約を締結する方向となりました。この契約が締結された場合には、大阪大学がキャンパスに設置し使用するすべてのPCに、ワード、エクセル、パワーポイントなどのMS-Office（Office for Macを含む）をダウンロードしてインストールできるようになります。また、既存のOSをWindows VistaやWindows XPなどの最新バージョンにアップグレードすることが可能になります。この契約には自宅使用权（WAH:Work At Home）も含まれますので、大阪大学の教職員と全学生（正規生）は、一人あたり一台のPCに上記ソフトウェアをインストールして自宅での作業や学習に使用できることとなります。この包括契約には、Windows サーバによる情報システム構築のためのCAL（Client Access License）使用权も含まれます。

契約までには時間が必要ですが、平成22年4月までにはソフトウェアのダウンロードが可能となるように検討しています。大阪大学の各部局および構成員の方々は、このような包括契約の予定があることを考慮し、PCやソフトウェアの導入、調達を計画的に進めていただくようお願いします。

この包括契約により、情報環境の向上と標準化、教育環境の充実、e-Learningなど修学環境の整備、学生サービスの向上、経費節減、業務の簡素化、不正ソフト使用の防止と組織的コンプライアンスの確立、ウイルスによる情報漏洩リスクの低減、36言語に対応するソフトウェアによる国際化など、大きな効果が期待されます。

この契約に関するご質問は情報推進部情報基盤課へお願いします。

美術館・博物館のキャンパスメンバーズ加入

大阪大学は、関西地域の博物館・美術館等と広く団体契約を結び、学生また教職員が地域の施設に自由に出入りできる環境を作ります。大阪大学が教育理念として重視する「教養」を育む環境をつくり、文化や芸術、科学や歴史を理解する学生を育てます。

平成20年12月1日から、以下の国立博物館・国立美術館の無料入館が可能になりました。

施設名	所在地	特典
国立国際美術館 京都国立近代美術館	大阪市北区中之島 京都市左京区岡崎円勝寺町	本学学生（科目等履修生、聴講生、研究生等を含む）及び本学教職員は、学生証または教職員証の提示により、次の特典を受けることができます。 所蔵作品展無料観覧（何度でも可） 特別展・共催展割引観覧
京都国立博物館 奈良国立博物館	京都市東山区茶屋町 奈良市登大路町	本学学生（科目等履修生、聴講生、研究生等を含む）は、学生証の提示により、次の特典を受けることができます。 平常展の無料観覧（何度でも可） ゼミ等の引率教職員は、教職員証の提示により無料となります。 特別展の観覧料金割引 ゼミ等の引率教職員は、教職員証の提示により団体料金となります。

今後もより多くの施設のメンバーとなり、地域と連携して「教養」のための環境を作ります。教員におかれは、美術館や博物館という空間や展示資料を利用して行う、新しいかたちの授業を積極的に進めていただくようお願いします。

高度教養教育シンポジウム

10月31日（金）に吹田キャンパスの医学部銀杏会館で、高度教養教育シンポジウム「大学院に教養教育はいらないのか」が開催されました。これは教育・情報室に設置された「高度教養教育推進ワーキンググループ」によるシンポジウムで、本学の学部と大学院における新たな教養教育の在り方について検討し議論したものです。早稲田大学オープン教育センター所長の土方正夫教授、筑波大学大学研究センターの小林信一教授、九州大学高等教育開発推進センターの岡本秀穂特任教授、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの小林傳司教授による発表と議論が行われました。



電子的情報基盤資料の選定

平成21年度の電子的情報基盤資料（電子ジャーナルやデータベースなど）について、電子図書館委員会及び図書館委員会で慎重に審議した結果、現在購入中の資料を継続すること、新規候補については各部局等から推薦のあった15点の資料のうち、1点のみを「分野共通」の新規資料とすることを決定しました。本学では、「全学共通」あるいは「分野共通」とする必要性、重要性、共通性を十分説明できる電子ジャーナル等については、厳格な審査に基づき、原則として全学共通の経費をあてることにしています。

附属図書館のラーニングcommons新設

既にお知らせしているように、現在改修工事中（来春完成予定）の附属図書館豊中本館および吹田分館の中心部に、「ラーニングcommons」を新設します。ラーニングcommonsは、情報機器やネットワーク環境を完備し、図書館資料と電子情報を融合的に活用できると同時に、グループ学習や討論・共同作業も可能となる、学生の主体的な「学び」のためのスペースです。「一人で静かに学習する場」としての図書館のイメージを変えることとなります。ラーニングcommonsにはTAを配置して、情報機器や図書館資料・電子情報の利用指導などの学習支援も行う予定です。

また、豊中キャンパスの大学教育実践センター自然科学棟の1～2階を平成21年秋までに整備し、「ステューデントcommons（仮称）」として学生のコミュニケーションの場とするとともに、セミナー室などの新しい学びの空間を作る計画です。



豊中本館ラーニングcommons イメージ図



吹田分館ラーニングcommons イメージ図

科目等履修生の出願手続き柔軟化と授業料等の部局配分

平成20年度に開始した、社会人のための学際教育プログラムとしての「大学院科目等履修生高度プログラム」は、産学連携や大学の社会貢献のために重要であり大阪大学として推進する必要があります。既にお知らせしたように、科目等履修生の出願手続きを柔軟化し、企業等に勤務する社会人が4月と10月の学期開始寸前に手続きをすることが可能となるよう制度を改めましたが、これに加えて、このプログラムに関する入学金・検定料・授業料の全額を、プログラム実施部局に還元することになりました。実施部局に対するこのような支援により、多様なプログラムが開かれていくことが期待されます。

平成20年度卒業式・学位記授与式

平成20年度の卒業式・学位記授与式は、以下の通り行われることになりました。

日時：平成21年3月24日(火) 10時50分～12時30分（開式11時00分）

場所：大阪市中央体育館（地下鉄中央線「朝潮橋」）

これまでと異なり、学部生の卒業式と大学院修了者等の学位記授与式をすべて一体化して執り行い、大阪大学経営協議会学外委員の方々にもご参列いただく予定です。父兄など同伴者の方々にも会場に入場していただけます。

なお平成21年度からは、大阪城ホール（大阪市中央区大阪城公園内）が、卒業式・学位記授与式の会場となる予定です。

研究・産学連携室

平成21年度グローバルCOEプログラムに関するヒアリング

グローバルCOEプログラムの来年度の募集は「学際、複合、新領域」の1分野のみであり、相当厳しい競争になると思われるため、研究・産学連携室では、採択に向け最大限の力を傾注することとしています。

そのため、9月中にどのような提案があるかを調査し、提出のあった拠点形成計画構想提案をもとに室会議でヒアリング対象を5件に絞った上で、11月中旬にヒアリングを実施し、プログラム間の調整等を検討することとしました。

競争的資金等の使用に関する行動規範及び競争的資金等不正防止計画

本学では、研究等を遂行する上での行動の基準となる行動規範及び研究費の適正な運営・管理を行うための不正防止計画をそれぞれ定めておりますが、10月には「競争的資金等ハンドブック」を学内教職員全員に配付するとともに教職員の競争的資金等の規則や執行ルールに関する意識調査を実施しました。

また、競争的資金等の事務処理手続き及び使用ルールに係る相談窓口での対応や本学の不正使用防止に関する取り組みのホームページ（ ）等による学内外への情報発信及び他大学の不正防止に関する情報収集を随時行っております。

本学教職員の皆様におかれましては、これらに基づき引き続き競争的資金等の不正使用防止に取り組んでいただきますようよろしくお願いいたします。

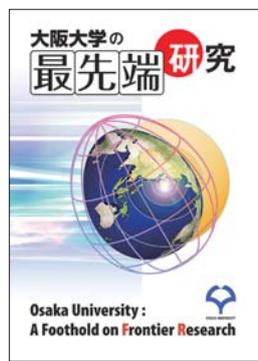
競争的資金等の不正使用防止への取り組み(<http://kenkyojim.osaka-u.ac.jp/07fuseiboushi/index.html>)をご覧ください。



「大阪大学の最先端研究」冊子

研究・産学連携室では、本学が誇る卓越した最先端研究拠点における活動内容を和文及び英文併記により、わかりやすく紹介した冊子「大阪大学の最先端研究」を作成しました。

この冊子は、世界トップレベル研究拠点プログラムをはじめ先端融合領域イノベーション創出拠点、グローバルCOEプログラムにおける活動を紹介したもので、学内外（海外を含む）に広く多くの方にご理解いただくことを目的としております。



産学官連携・知的財産に関するセミナー・講習会を開催

産学連携推進本部では、学内外を対象としたセミナー・講習会を、随時、開催しています。

10月には、学内外の教員・研究者や知的財産担当者を対象として、「ライフサイエンス分野における特許審査セミナー」を特許庁・近畿経済産業局と共催により開催しました。このセミナーでは、特許庁特許審査第三部生命工学の山中隆幸審査官から、ライフサイエンス分野の特許性判断について、遺伝子工学、微生物、医療機器等、分野別に事例を挙げて説明があり、参加者にとっては、今後、特許出願を検討する際等に大いに参考となるものでした。



産学官連携・知的財産担当者等講習会

また、学内向けとして、昨年度に引き続き「産学官連携・知的財産担当者等講習会（入門・初級編）」を開催しました。この講習会は、学内の産学官連携・知的財産関連業務に従事する教職員を対象に、業務に必要な知識の修得、実務能力の向上を目的として開催しています。今年度は25名が受講し、うち20名が修了試験として知的財産管理技能検定3級を受検しました。

なお、同本部では、今後、「国際的産学官連携推進」、「協働育成型イノベーション創出リーダー養成」に関するシンポジウム等を開催して参ります。詳細は、決まり次第、同本部ホームページ（<http://www.uic.osaka-u.ac.jp/>）でお知らせします。

評価室

暫定評価「教育研究評価」に係る訪問調査の実施

国立大学法人法に基づく、(独)大学評価・学位授与機構による「教育研究評価」に係る訪問調査が10月21日～22日に実施されました。

今回の調査では、法人として提出した「中期目標の達成状況報告書」の内容に関して、総長をはじめとする大学執行部からの意見聴取、教育に関する施設視察(人間科学研究科、留学生センター、吹田学生センター等)在学生・卒業(修了)生との面談が行われました。

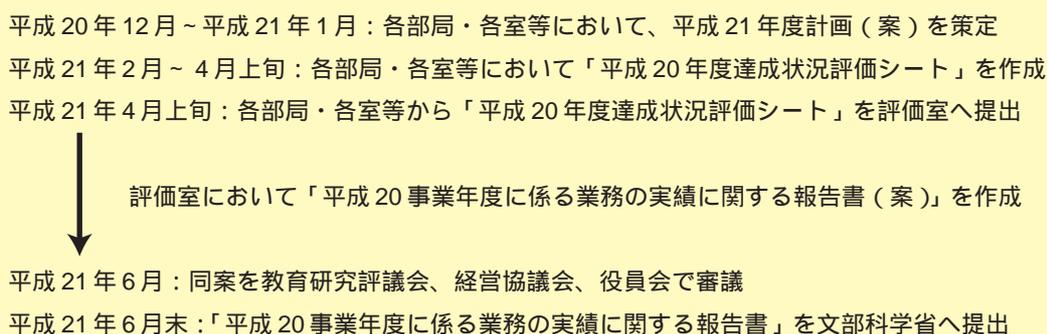
なお、関係各部局に作成いただいた「現況調査表」に関しては、質問はありませんでした。

この「教育研究評価」の評価結果は、平成21年2月頃に原案が示され、意見申立を経て、3月に確定・公表される予定です。

平成20年度業務実績報告書の作成

現在、各部局・各室等において平成21年度計画(案)が策定されているところですが、平成20年度業務実績報告書についても、昨年度同様に、次のスケジュールで作成を予定しています。

なお、これらに関する大まかなスケジュールは、次のとおりです。詳細版は、改めて、阪大ポータルに掲載する予定です。



達成状況評価書 平成19年度及び中期目標期間(平成16～19年度)の送付

11月26日に平成19年度及び中期目標期間(平成16～19年度)の部局達成状況評価書を各部局へ送付しました。

各部局におかれては、平成20年度計画の推進及び平成21年度計画の策定並びに第一期中期計画の達成に向けて、本評価書を活用いただきますようお願いします。

なお、各部局の達成状況評価書は、阪大ポータル(学内専用)に掲載しております。

https://www-info.osaka-u.ac.jp/gakunai/g_sh/hyoka/tassei/19/index.html

財務室

平成20年度予算補正（第1次）

法人化後の大学予算は、学生納付金収入（授業料、入学金、検定料）、附属病院収入などの自己収入額の実績に応じて適宜収入予算を見直し、その増減に対応した支出予算の見直しを行う作業である予算補正案の編成作業を行う必要があります。

このため、年度当初の収入見込額と、上半期の収入実績額を基礎として見込み直した収入見込額との増減額を支出予算に反映させて、財務室において策定した平成20年度予算補正（第1次）案が、役員会において承認されました。

平成21年度教育研究等重点推進経費の公募

平成21年度教育研究等重点推進経費の公募について、本学の現状や将来の方向性を戦略的に見据え、全学的もしくは部局横断的な観点から推進・改善すべき教育研究等に関わる重要事項に充当する経費の要求を、平成21年1月8日（木）までに提出していただくよう、平成20年11月26日付けで、各室・各部局あてにお知らせいたしました。

今後、提出のあった要求事項について、財務室員による書類審査・ヒアリング審査を踏まえて、執行計案案を策定し、平成21年3月の役員会で審議・承認をいただく予定です。

平成20年度教育研究等重点推進経費の追加公募

平成20年度教育研究等重点推進経費の追加公募については、10月10日までに提出のあった各部局等からの要求書に対して、財務室員による書類審査を経て、11月27日及び28日にヒアリングによる審査を行いました。今後、財務室会議において審議の上、執行計案案を策定し、12月の役員会で審議・承認をいただく予定としており、配分決定事項については、次回の役員室だよりでご報告いたします。



財務室員による教育研究等重点推進経費ヒアリング風景

人事労務室

特任研究員（常勤）制度を導入します

法人化以来、特任研究員は、非常勤職員の定時教育研究等職員又は短時間教育研究等職員として雇用してきました。

この間、より優秀な研究者の確保及び育成を図るために、常勤の研究員を雇用することのできる制度導入の要望が寄せられていたことから、各部局等に意見照会をするなど、慎重に検討を重ねた結果、以下のとおり、平成21年4月から特任研究員（常勤）制度を導入することとなりました。

「特任研究員（常勤）」の制度とは？

職 名：特任研究員（常勤）

職務内容、契約期間等：特定のプロジェクトにおいて、大学の研究員としての業務に従事し、3年（高度専門職員5年）以内更新可能回数は、大学が必要と認めた場合を除き1回

勤務時間：専門業務型裁量労働制を適用
（多種多様な個々の研究活動に即したフレキシブルな労働時間が可能）

給与制度：年俸制 約450万円～約2,000万円（税等込み）

福利厚生等

社会保険等：国家公務員共済組合及び雇用保険等に参加

宿 舎：本学宿舎に入居可

【平成21年4月1日適用】

広報・社会学連携室

21世紀懐徳堂の活動

大阪大学の社会学連携活動については、21世紀懐徳堂が中心となり進めているところです。10月以降、以下の主催事業を行いました。

- | | |
|-------------------|---|
| 10月6日(月)～12月3日(水) | 第40回大阪大学中之島講座（大阪大学中之島センター） |
| 10月11日(土)～ | 大阪市との連携事業「大阪大学21世紀懐徳堂講座」（大阪市 i-spot） |
| 10月16日(木) | 第1回大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウム
「地域と大学と一緒に考える“まちづくり”」（大阪市中央公会堂） |
| 11月25日(火) | ロボット演劇「働く私」（大阪大学21世紀懐徳堂多目的スタジオ） |

21世紀懐徳堂シンポジウムとロボット演劇の詳細については、トピックス（2～3および56ページ）に掲載。

摂津市との連携協定を締結

12月1日(月)に、摂津市と大阪大学との間に「連携協力に関する包括協定」を締結しました。

同市とは、これまでに、「まちづくり事業」に関する調査協力や、同市主催の市民フォーラムでの講演等での協力関係があり、今後も協定に基づき、文化・教育・環境・産業・まちづくり等の様々な分野において相互協力を進めていくこととしています。

なお、詳細は、40ページに掲載しています。

光のルネサンスに参加

中之島地区で開催される光のルネサンス(開催期間:12月1日(月)~25日(木))に本学も参加いたします。

本学からは、統一テーマ「大阪大学中之島センター・クリスマスイベント“夢見る光”」として、12月15日(月)から25日(木)までの期間中、中之島センターの10階東面、北面をイルミネーション等で装飾するとともに、12月20日(土)、25日(木)の午後5時30分からは、同センター1階ロビーにて弦楽四重奏団“浪花きやろるず”による演奏イベントを開催します。

是非、開催期間中にお誘い合わせの上、中之島地区にお越しください。



阪大ニューズレター No.42 を刊行



阪大ニューズレター No.42 を刊行しました。「総長カフェ 21世紀懐徳堂ライブ」では、鷲田総長が元文部科学大臣の新国立劇場・遠山理事長を訪ね、「教育と文化」に携わられた数々の経験談と、これからの大学教育について伺いました。

今号は、在学生(学部学生)の保護者の方々にも送付することになっています。

国際交流室

海外教育研究センターと学生交流の推進

本学が米国のサンフランシスコ、オランダのグローニンゲン、タイのバンコクにそれぞれ教職員が常駐する教育研究センターを設置していることは、皆様ご承知のことと思います。最初に設置したサンフランシスコ教育研究センターは今年ですでに5年目、バンコク教育研究センターは3年目、当初は職員のみを配置していたグローニンゲン教育研究センターは、藤原センター長が就任して2年目となります。海外拠点をどのように活用できるか、試行錯誤を続けてきましたが、学生交流の推進では具体的成果が挙がりつつあります。

サンフランシスコ教育研究センター

UC(カリフォルニア大学)のEAP(Education Abroad Program)は、UCシステムの全キャンパスで横断的に運用している学生の海外派遣プログラムです。UCシステム全体で毎年4,000名程度を海外に派遣しています。大阪大学のOUSSEPは、これまでこのEAPが公式には認定せず、UCの学生が大阪大学へ短期留学する場合には、いわゆる部局分散となっていました。2008年夏になって、UCサンディエゴのArzberger教授が情報科学

研究科を訪れた際、新しい短期留学受入プログラム FrontierLab@OsakaU を紹介し、EAP に働きかけてくれるよう要請したところ、快くそれを引き受け、UC システム内で交渉してくださいました。その結果、FrontierLab@OsakaU は EAP として派遣可能な短期留学プログラムとして認められたのです。直接的には、Arzberger 教授の手腕によるところが大きいのですが、実は、それ以前に、サンフランシスコ教育研究センターから UC サンディエゴの関係者へコンタクトしていました。現地でのネットワークが有効に機能したといえるでしょう。加えて、今後、UC の各キャンパスで行われる留学フェアでは、FrontierLab@OsakaU を積極的にプロモートすることができます。来年以降、UC の各キャンパスからの学生が参加してくれることを期待していますが、まずは、大阪大学でどのような研究が行われているか、積極的に UC の学生に研究者・研究内容に関する情報提供を行わなければならないと考えています。

グローニンゲン教育研究センター

前号でご紹介しましたが、本年、「ICI ECP」(先導的留学生交流プログラム支援制度)という新しい短期交換留学プログラムが EU と日本との間で開始され、大阪大学からは 2 件申請し、2 件とも採択されました。このうち一件はグローニンゲンセンターがグローニンゲン大学と密接に協力して、申請を行いました。これにより、新たにハイデルベルグ大学、ウブサラ大学、ポーフム大学の 3 つの大学との間での短期交換留学が行えることになりました。この 11 月には、グローニンゲン教育研究センターと国際企画推進本部がこれらの 4 大学を訪問しました。今後、交流を鋭意推進する予定です。もう一件工学研究科から申請したものは、デルフト工科大学、デンマーク工科大学、スウェーデン工科大学との間で交換留学を行います。このほか、理学研究科が中心となり International Training Program (ITP) 学生の派遣を行っています。派遣先を決めるにあたってグローニンゲン教育研究センターが大きな役割を果たしています。従来から交流のあるアーヘン工科大学などに加え、このところエアランゲン大学、ベルリン自由大学、ベルリン工科大学、グルノーブル大学連合から学長、副学長クラスの方々が本学を来訪あるいは来訪予定となっており、交流協定も確実に増えつつあります。今後グローニンゲン教育研究センターが欧州との学生交流推進の中心的役割を果たしてゆくものと期待しています。

バンコク教育研究センター

今年 4 月に FrontierLab@OsakaU への募集を行った折、バンコク教育研究センターは近隣の大学から 10 名を超える学生をリクルートしました。長年にわたって構築した人的ネットワークが役立つといえます。本号でも紹介があるように、バンコク教育研究センターは 10 月に東南アジア諸国で、本学と大学間協定を締結している大学の副学長を招いて、バンコク市内のホテルで初めて副学長会議を開催しました。大学間協定をもつ 12 の大学すべてから基本的に副学長が参加しましたが、どの大学からも、大阪大学がこのようなイニシアティブを取ることに歓迎の意が表されました。大阪大学の国際交流に関する詳しい説明が行え、協定校のニーズについても情報が得られました。今後の学生交流推進に必ず役に立つ有意義な会合であったといえます。

優秀な学生のリクルートへ向けて

以上のように、3 つの教育研究センターを中心とした学術交流協定校とのネットワーク構築が着実に進んでいます。このネットワークを有効に活用して、優秀な学生を数多くリクルートし、また本学の学生の派遣も推進してゆきたいと思えます。優秀な学生を本学に惹き付けるには、やはり、大阪大学で魅力のある研究・教育が行われていなければなりません。そして、本学が誇れる研究・教育内容は、もっと積極的に PR されなければなりません。情報はあふれていますが、伝えたい所へ伝わっているかどうかが問題です。

この 12 月に、上海交通大学で大阪大学留学フェアを大々的に開催することになりました。レーザーエネルギー学センターの高部教授が多くの先生に呼びかけて、模擬講義等も実現することになりました。このような活動を通じて、上海交通大学の学生に大阪大学ではどのような研究者がいて、如何に面白い研究が行われているかをアピールすることができます。

国際交流室は、このような活動を各地の教育研究センターを活用して進めてゆきたいと考えています。例えば、外国出張の際、これらの協定締結校を訪問していただき、講演や模擬講義をしていただければいかがでしょうか。各地の本学教育研究センターへコンタクトしていただければ、講演を設定することに関していろいろお手伝いできると思えます。また、各教育研究センターからそのようなイベントへの参加要請がありましたら、できるだけご協力いただきたいと思います。

障害学生支援室の活動

「障害学生の学びの支援」と「障害学生からの学びの支援」

障害学生支援室 助教 松原 崇

はじめに

大阪大学は、「障害を有する学生の支援に関する要項」を定め、障害を有する学生が障害のない学生と同様に学び、学生生活を送ることができるよう適切な配慮や支援を行うことを大学の責務としています。そしてその責務を果たすために、配慮や支援のコーディネートを担う部署として障害学生支援室を吹田キャンパスと豊中キャンパスに設け、専任教員1名（筆者）と事務補佐員1名を配置しています。ここでは、こうした障害学生支援室の活動を「障害学生の学びの支援」と「障害学生からの学びの支援」という2つの側面から紹介します。

障害学生の学びの支援

障害学生支援室の活動の最大の目的は障害学生の学ぶ権利を保障することです。そのために、障害学生から相談を受け付け、所属する学部・研究科と連携しながら、配慮や支援のコーディネートを行います。たとえば、ろうの学生が授業に参加できるようノートテイカー（筆記通訳者）を派遣したり、授業の開講される教室を肢体不自由の学生にもアクセスしやすい場所に変更したりしています。もちろん、身体障害を有する学生だけでなく、難病の学生、発達障害を有する学生、精神障害を有する学生からの相談も受け付けています。

また、障害学生への配慮や支援を実施するためには、障害学生の所属する学部・研究科の教職員に情報提供を行ったり、障害学生の人的支援を担うアルバイト学生の支援技術の向上のために養成講座を開催したりといった支援者への支援も必要です。さらに、学内要項等を整備して支援体制を構築したり、学内外の支援情報を広く収集・記録したりと活動の土台となる支援環境の整備を行うことも重要な活動のひとつです。



支援者の養成講座

障害学生からの学びの支援

ところで、こうした「障害学生の学びの支援」を実施するためには、大学として、障害学生から学ぶ姿勢が欠かせません。障害のある人たちには障害があるからこそ見える現実があります。たとえば、障害のない人たちにとっては日頃気にも止めない段差が、障害のある人たちからは移動を妨げる重大なバリアと見えることがあります。障害学生の視点に謙虚に学ぶことで支援体制や支援技術を絶えず見直し、環境整備を進めることが重要だと考えています。

また、障害学生支援室では、一般の学生・教職員に対しても、こうした「障害学生（障害者）からの学びの支援」のプログラムを提供しています。たとえば、障害学生や大学周辺の障害のある地域住民を含むボランティア・スタッフを中心として、バリアフリーチェックのワークショップを定期的に行っています。参加者は、障害学生や障害のある地域住民と対話しながらキャンパスを回るなかでふだん見慣れたキャンパスを異なる視点から経験します。参加者のひとり「4年間も大学に通っていたけど、こんなにバリアが多いなんて知らなかった」と語り、その経験を“異文化との出会い”と表現しました。このワークショップ以外にも、ろうの方から直接に手話を学ぶ手話講習会を開催したり、障害にまつわる身近なテーマについてざっくばらんに話し合うカフェを設けたりといったプログラムを実施しています。これらのプログラムに参加し、障害学生・障害者から学んだ学生・教職員が、学内のあちこちで障害学生の学びやすい大学作りに寄与して下さることを期待しています。



障害学生とのバリアフリーチェック



ろうの方から手話を学ぶ

おわりに

以上、「障害学生の学びの支援」と「障害学生からの学びの支援」という2つの側面から障害学生支援室の活動を紹介しました。ただ、紙数の制限から詳しく説明することができなかった事柄もあります。障害学生支援室についてより詳しくお知りになりたい方は、ぜひ、11月にリニューアルしたウェブサイト（<http://www.osaka-u.ac.jp/campus/shien/>）を訪問してみてください。そして、もし「利用してみようかな」、「関わってみたいな」と思われたなら、どなたでも気軽に御連絡を頂ければと思います。

まつばら・たかし

プロフィール

障害学生支援室助教。
大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。専門はグループ・ダイナミクス、障害学。グループ・ダイナミクスの枠組みから、大学をフィールドに障害という 이슈を研究しています。

学生支援GP「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」合宿研修開催 目指せ!未来のリーダー!!?

平成19年度文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択された「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」プログラムを平成19年度から学生部主体で実施しています。

平成20年度は8月から9月にかけて、鷲田清一総長をはじめ様々な分野から約30名の講師を迎え、各学年ごとに3泊4日の日程で合宿研修を行いました。

学部間を越え1年次28名、2年次19名、3年次24名の学生が参加し、プログラムを通して「市民社会とは何か」、「求められるリーダー像」についてグループワーク、ディスカッション等で、自由な議論を展開させました。

来年1月に開催される総長ラウンドでは、合宿で得た経験をもとに、学年間を越えた関係も醸成できるのではないかと期待されます。

学生支援GPの合宿研修の報告や、その他の活動については、同プログラムHP (http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/leadership_GP/index.htm) に掲載されています。

(学生部キャリア支援課)



ワークショップに熱心に取り組む参加学生

ALECシンポジウム

「刑事法における紛争の予防と修復 「生き直し」としての刑事司法をめざして」開催

9月14日(日)、中之島センターの佐治敬三メモリアルホールにおいて、文部科学省専門職大学院等教育推進プログラム「紛争の予防能力と修復能力を備えた法曹養成 - プロセスとしての紛争解決に向けて」の活動の一環として、ALECシンポジウム「刑事法における紛争の予防と修復 「生き直し」としての刑事司法をめざして」が開催されました。

このプログラムでは、高等司法研究科内にALEC (Advanced Legal Education and Career Center) という実施組織を設け、紛争予防と紛争後の関係修復を視野に入れた高度な法学教育のあり方を模索しており、今回のシンポジウムは、



刑事法の領域で「紛争予防と紛争後の修復」の問題を取り上げたものです。刑事弁護人として全国的にも著名な高野嘉雄弁護士を基調講演者、パネリストに招き、「更生に資する刑事弁護」という視点での基調講演では、罪を犯したとされる被告人に寄り添い、その「生き直し」をサポートする存在としての弁護士の使命と存在意義をお話いただきました。また、後半のパネルディスカッションでは、高野氏に加え、薬物中毒者の立ち直りを支援している中原修弁護士、更生保護施設の運営にかかわり、生活手段のない出所者の援助活動を行っている木原万樹子弁護士、少年事件の付添人や保護司としての活動をされている野口善国弁護士に、それぞれの活動の苦労話ややりがいを教えていただきました。

聴衆は、高等司法研究科の学生を中心に60余名で、各パネリストの実践に裏付けられた感動的なお話しに熱心に耳を傾けていました。このような企画から、法律家の社会的使命を学び、今回のパネリストの先生方のような先人の活動を受け継ぐ者が出てくることを願っています。

なお、このシンポジウムの記録は、広く他大学や他部局でも活用できるように、DVDの形で残っておりますので、興味のある方は、高等司法研究科までご連絡ください。

(高等司法研究科)

大学教育実践センター創立5周年記念シンポジウム開催

「21世紀型『市民』の育成と学士力」をテーマに、大阪大学大学教育実践センター創立5周年記念シンポジウムがコンベンションセンターにおいて9月17日(水)に開催されました。

このシンポジウムは、昨今の高等教育政策の動向を視野に入れつつ、大学の人材育成機能のあり方に造詣の深い大学等関係者、政策担当者にご講演いただくとともに、「学士力」の問題について意見交換を行う目的で企画され、全国の大学等から91名の参加がありました。

小泉潤二理事・副学長の開会挨拶の後、基調講演が行われました。講演1は「我が国における大学評価の将来と留学生問題」というテーマで、木村 孟独立行政法人大学評価・学位授与機構機構長が、大学の国際競争力・国際的な評価という観点から、留学生の受け入れにおける問題点と可能性を指摘され、示唆深いものとなりました。

講演2では「中央教育審議会における審議について」と



題して、榎本 剛文部科学省高等教育局企画官兼高等教育政策室室長からの発表がなされました。これは去る7月1日に閣議決定された「教育振興基本計画」の諮問にも関連した話題で、有用な情報を多々含むものでした。

基調講演の後、ディスカッションに向けて3名の話者提供から報告および話題が寄せられました。まず、工藤真由美大学教育実践センター長から「大阪大学大学教育実践センター5年間の歩み、そして新たなステージへ」と題して報告がなされました。次に、神戸大学大学教育推進機構の川嶋太津夫教授から「学士力の背景と展望」と題して発表がなされ、さらに同志社大学教育開発センターの山田礼子所長から「教養教育における学士力を考える：異文化リテラシーの観点から」と題して話題提供がありました。

その後、先の話者提供者および高杉英一理事・副学長を中心に、フロアの参加者も交え、「教養教育における学士力を考える」をテーマに活発な議論が交わされました。

(大学教育実践センター)



平成20年度大阪大学安全衛生講演会開催

10月3日(金)基礎工学部シグマホールにおいて、平成20年度大阪大学安全衛生講演会を開催しました。この講演会は、大阪大学安全衛生週間(10/1~10/7)等にあわせて毎年開催しているものです。

今年度は、武井 勲安全衛生管理部特任教授(リスク管理)を講師に迎え、「大学におけるリスク・マネジメントと危機管理について」と題して、大学におけるリスク・マネジメントや国立大学時代と法人時代のリスク・マネジメントの違い等について具体的な事例を踏まえた説明がありました。参加者からも積極的な発言があり、活発な質疑応答が行われました。当日は、約70名の参加がありました。

(安全衛生管理部)



薬学部新入生合宿研修実施

薬学部新入生合宿研修が、9月29日(月)、30日(火)の日程で、京都市右京区京北にある京都府立ゼミナールハウスで新入生84名、教職員21名が参加して実施されました。

これは、専門教育の授業が始まる1年次2学期の開始直前に、薬学部の現状と将来に対する認識の再確認とともに、学生と教職員の親睦を深めることを目的として行っている



分科会

ものです。

1日目は、長岡京市にあるサントリーの京都工場を見学した後、ゼミナールハウスに会場を移し、初めに小林資正学部長の講話「大阪大学薬学部の目指すもの」、続いて八木清仁教授の履修に関する説明があり、その間学生は真剣な様子で聞き入っていました。

夕食は、雨が降ったり止んだりのあいにくの空模様となりましたが野外テントでバーベキューを行い、京都の奥座敷と形容される素晴らしい自然の中、肉や野菜に舌鼓をうちながら、にぎやかに交流を深めました。

その後、学生と教員との懇談を行い、夜遅くまで活発な意見交換が行われました。

2日目は、少人数のグループで分科会を行い、学生と教員が学生生活や薬学の未来などについて、自由なテーマで話し合いました。

このように、盛りだくさんな日程でしたが、実りある研修となりました。

(薬学研究科・薬学部)

平成20年度第2回全国国公立大学薬学部長(科長・学長)会議開催

平成20年度第2回全国国公立大学薬学部長(科長・学長)会議が10月3日(金)、KKRホテル東京において開催されました。

この会議は全国の国公立薬学系17大学の学部長等が出席し、文部科学省から関係者を招いて毎年春季・秋季の年2回開催されるものです。文部科学省からは新木一弘高等教育局医学教育課長、渡部廉弘同課長補佐、吉田博之同課薬学教育専門官、川村 優同課専門職にご出席いただき、本年度幹事校である本学大学院薬学研究科小林資正研究科長が議長を務めました。初めに、新木医学教育課長から今後の薬学行政のあり方、特に予算の状況等についての説明があり、コメディカルの養成を充実していくことが最重要課題であることやがんに関する医療人の養成に尽力していること、また薬害防止に関する教育の充実などの貴重なご講演をいただき、各大学からの質疑応答の後、議事が進められました。

特に本年度においては、平成18年度に設置された新課程による薬学部4年制学科学学生が進学する大学院を平成22年度に設置するにあたり、薬学教育の現状を鑑み、今後における体制の構築や問題点等検討すべき事項について、各



学部長等による白熱した議論が展開されました。

また、京都大学から提案のあった平成21年度大学・大学院卒業・修了予定者にかかる就職・採用活動早期化の自粛について、最終学年の4月1日を解禁日とする要望書を企業等関係機関へ本会議から提出することとし、全国薬科大学の学部長会議にも諮ることが承認されました。3時間という限られた時間でしたが、出席者の活発な意見交換が尽きることなく、盛況のうちに閉会となりました。

(薬学研究科・薬学部)

平成20年度工学研究科博士前期・後期課程10月入学式挙行

平成20年度工学研究科博士前期・後期課程10月入学式が、10月7日(火)に、医学部銀杏会館内阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて挙行されました。

当日は、文部科学省の「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」に入学した外国人留学生と、博士後期課程10月新入生が出席しました。

式は、馬場章夫研究科長、谷口研二評議員を始め、副研



馬場研究科長による式辞



究科長並びに各専攻長の列席のもと、掛下知行教務委員長(副研究科長)の司会により進められました。初めに、馬場研究科長から新入生歓迎の式辞が述べられ、その後、博士前期課程24名、博士後期課程50名の入学生を代表して、博士後期課程生命先端工学専攻バイオテクノロジー英語特別コースのLee Mei Hannさんが代表挨拶を行い、10月入学式を閉会しました。

(工学研究科・工学部)

平成20年度工学研究科「アジア人財資金構想」高度専門留學生育成プログラム・博士前期課程開講式挙行

経済産業省・文部科学省による平成20年度「アジア人財資金構想」高度専門留學生育成事業に採択された上記プログラムの開講式が、10月7日(火)に、医学部銀杏会館内阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて挙行されました。

式は、来賓として経済産業省近畿経済産業局から志賀英晃産業人材政策課長、三浦佳子調査官をお迎えし、小泉潤二理事・副学長、馬場章夫工学研究科長、谷口研二評議員を始め、留學生所属専攻長の出席のもと、座古 勝特任教

授(副プロジェクトリーダー)の司会により進められました。初めに、小泉理事・副学長および馬場研究科長から留學生歓迎の式辞が、また、志賀産業人材政策課長から国を支える人材としてアジア人留學生への期待がそれぞれ述べられました。その後、留學生10名(中国6名、韓国3名、ネパール1名)を代表してビジネスエンジニアリング専攻の羅 大路君より「日本の国を支える人財」になるように頑張りたいとの決意の表明があり、開講式を閉会しました。



(工学研究科・工学部)

外部資金獲得に向けた「科学研究費補助金説明会」に315名が参加

科学研究費補助金の申請件数の拡大及び採択率の向上を図るため、応募予定者及び事務担当職員を対象とした科学研究費補助金説明会を、9月22日(月)に吹田キャンパス、9月30日(火)に豊中キャンパス、10月6日(月)に箕面キャンパスにおいて開催しました。それぞれの地区で開催した説明会の出席者は、315名に上りました。

説明会は、吹田地区は産業科学研究所の沼尾正行教授(日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員)、豊中地区は理学研究科の山中卓教授(日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員)、箕面地区は人間科学研究科長の三浦利章教授(日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員)がそれぞれ講演し、科学研究費補助金の現状説明や申請の審査体制、審査でポイントとなる点、申請書を作成する上でのアドバイス等について詳細な説明や、科研費LaTeX(研究計画調書作成ソフト。数式や記号、箇条書き等が簡単に作成可能。)の紹介が行われました。

また、説明会では、研究推進課の太田知子係長から応募に関する留意点の説明のほか、不正使用防止計画推進室の林正一郎室長補佐から科学研究費補助金の不正使用にか



かる説明があり、繰越制度の紹介を交えながら、不正使用防止に対する意識向上を図りました。特に不正使用をした場合の措置等については、具体的に罰則を示し注意を促しました。

説明会後のアンケートでは、「講師の方々の説明が丁寧でわかりやすかった」、「不正使用の防止意識が高められた」、「各地区で開催されたため参加しやすかった」などの声が寄せられました。

(研究推進部研究推進課)

平成20年度第2回大阪大学初任者研修実施

平成20年度第2回初任者研修が、10月6日(月)から8日(水)までの3日間にわたり事務局及び中之島センター等において行われました。

この研修は、本年8月1日以降採用された事務職員18名を対象として、「職員としての自覚と意識の確立を図り、初任職員として必要な基礎的知識・技能を身につけ、職場への適応力を養う」ことを目的として実施されたものです。

開講式では、西田正吾理事・副学長から「阪大スタイル」(教育・研究・社会貢献)についての説明と、本学職員としてその社会的責任を一丸となって果たして欲しいこと、併せて各自の職務を認識するとともにスキルアップに努め



西田理事・副学長

ていただきたい旨、激励の言葉がありました。その後外部講師から「社会人の心構えを身につけること」、「主体性を養うこと」、「チームワークを意識すること」、「コミュニケーション力強化」について2日間にわたり講義・演習が行われました。

3日目は、本学の職員として大阪大学を知ることを目として懐徳堂旧趾の碑に受講生各自が集合し碑文を見学、次に適塾を見学し、続いて本学と人事交流している国立国際美術館へ移動し、出向職員との面談等が行われました。

その後、本学の施設である中之島センターに会場を移し、中之島センターの概要の説明を受け、引き続き高杉英一理事・副学長から「大阪大学の歴史」の講義、岩切平治総務部長から「大阪大学職員に求められること」についての講話が行われました。

閉講式では、月岡英人理事・事務局長から修了証書授与の後、この研修で学んだことを実際の業務を行う際に活用いただくとともに、自身の成長に努め、大阪大学のために活躍いただきたい旨、激励の言葉がありました。

この研修を通じて受講者は、お互いに親睦を深め合うなど有意義な時間を共有するとともに、3日間の研修を全員、無事修了しました。

(総務部人事課)

第13回大阪大学 - 上海交通大学学术交流セミナー開催

10月8日(水)、大学間学术交流協定校である上海交通大学との交流の一環として、張傑学長を始め、同大学の教授等23名を本学に迎え、医学部銀杏会館等において「第13回大阪大学 - 上海交通大学学术交流セミナー」が開催されました。

このセミナーは、同大学との学术交流協定締結を機に、1995年以降、毎年交互に両大学で各分野の研究者を招へ



いして開催しているものです。当初は材料、化学等理系での交流が中心でしたが、その後交流分野を拡げ、本学が当番校となった本年は、材料、化学、物理、船舶、情報、経済、環境政策という多岐に亘る分野の研究者が本学を訪れました。

驚田清一総長、張学長の開会挨拶に続いて張学長、西尾章治郎理事・副学長(研究・産学連携担当理事)による、それぞれの大学の概要及び最新研究を紹介する基調講演が行われた後、「材料・化学」「物理学・応用物理学」「船舶工学」「情報科学」「ゲーム理論と社会選択理論の進展」「環境政策・サステナビリティ」の6分科会に分かれ、各分野について議論を深めました。

講演・分科会を合わせ約300名以上が参加する盛況ぶりで両大学の継続的な学术交流が、より緊密な日中関係の構築につながることが実感されました。

(国際部国際交流課)

「持続的な人間の安全保障とキャパシティ・ディベロップメント」セミナー開催

グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)は、10月9日(木)から31日(金)まで、「持続的な人間の安全保障とキャパシティ・ディベロップメント」セミナーを実施しました。本セミナーは、GLOCOLの実践部門の活動として国際協力機構(JICA)と連携して行っており、今年度はアフリカの5カ国から地域社会発展のための実務に携わる行政職員およびNGO職員の計7名が参加しました。

セミナーの目的は、対象国の行政機関等が、人間の安全保障の問題に効果的に対応できるよう組織能力を強化することです。研修の前半は本学教員を講師として、人間の安全保障の概念や動向について学びました。中盤には広島市と水俣市を訪れ、原爆や公害という問題に直面した地域がどのように人間の生活や社会を修復したかを学ぶ機会を盛り込みました。水俣病は、健康被害や環境汚染だけでなく社会を分断し人間関係をも破壊しましたが、1990年代以降、水俣市では、人間関係を修復する「もやい直し」という概念を軸に、社会の再生と新たな発展を目指した挑戦が続けられています。水俣市の取り組みから、紛争などによって人間の安全保障が損なわれたアフリカ各国の社会改善への大きなヒントを得ることができました。研修生は、日本の研修で学んだことを自国の人間の安全保障の課題に応用するためにアクションプランを作成し、各々が策定したプランに基づいて、平成20年11月から平成21年2月までの4カ月間、各参加者が課題に取り組んだ後、平成21年3月にケニアにて再集合し、それぞれの取り組みを報告しあ



二次研修を予定しています。

本セミナーは、本学の研究・教育を実践的活動に結びつけるとともに、本学が直接的に行う国際貢献として、意義のある活動です。

アクションプラン課題

病院の信頼回復のための改善計画(コートジボワール)
 学校教員を対象としたHIV/AIDS関連知識普及啓発(コートジボワール)
 中央政府公務員のキャパシティ強化のための組織づくり(ルワンダ)
 保健省医療従事者人員配置の適正化策策定(ナイジェリア)
 既婚女性に学校復帰を促す普及啓発(ナイジェリア)
 小学校の環境衛生改善を目的とした日本の小学校との連携(エチオピア)
 エンパワーメント評価を用いたNGOキャパシティ強化(南アフリカ)

(グローバルコラボレーションセンター)

第24回湯川記念講演会開催

湯川記念室の定例行事として毎年開催している湯川記念講演会が、本年度も日本物理学会大阪支部との共催、日本物理教育学会近畿支部の後援により、10月5日(日)大阪大学中之島センターにおいて開催され、幅広い年齢層の約150人が参加しました。



住教授

『地球温暖化問題の現状と今後の課題』と題し、東京大学の住明正教授が、環境問題の現在の状況と我々の社会の進むべき道筋についてわ

かりやすく解説されました。次に、本学理学研究科の林田清准教授が『X線で見える宇宙』と題し、宇宙に存在するブラックホールや超新星



林田准教授

を日本のX線天文衛星すざくを使っていかに探るかを解説されました。

どちらの講演も、聴衆からは熱心な質問が続出し、知的興味を呼び起こす有意義なものとなりました。

(湯川記念室)

平成20年度部局長等との合同巡視実施

10月14日(火)から10月17日(金)にかけて、部局長、事業場安全衛生委員会委員、部局安全衛生委員会委員、担当事務の方々を交えた合同巡視を実施しました。本学では安全衛生管理部の専任スタッフによる定期巡視を毎日実施していますが、これとは別に部局長等を交えた合同巡視を行っています。合同巡視は安全衛生管理の重要性について理解を深めていただくとともに、当該部局における危険箇所等の改善の推進に役立てていただくことを目的に実施しています。参加者からは、「実際に現場を見て回ることで問題点に理解が深まり安全意識が高まった」「合同巡視は安全意識の向上に役立つため、もっと多くの学生、教職員に参加してもらおうほうがよい」等の意見が寄せられました。

(安全衛生管理部)



緊急用シャワーの安全点検の様子
(西田正吾・安全衛生管理部長ほか)

平成20年度秋季安全衛生集中講習会(安全系・健康系)実施

9月25日(木)から10月20日(月)にかけて、平成20年度秋季安全衛生集中講習会(安全系・健康系)を実施しました。

この講習会は、本年5月から6月にかけて実施した春季安全衛生集中講習会と基本的に同じ内容で、新たに研究室等に配属になった方々を対象に開催したものです。安全系では、環境安全研究管理センター、低温センター等の協力を得て、化学物質、高圧ガス、低温寒剤、酸素欠乏等に関する安全講習が実施されました。また健康系では、保健センターの協力を得て、フィジカルヘルスとメンタルヘルスに分けて健康管理に関する講習が実施されました。参加者は、全日程で約450名でした。

(安全衛生管理部)



竹内徹也低温センター助教
(高圧ガス・液体寒剤に関する安全講習)

障害学生支援室が手話講習会開催

障害学生支援室では、2002年度より毎年度、学生・教職員の啓発や教育の一環として、手話講習会を開催しています。今年度も全10回の手話講習会が10月15日(水)から始まりました。今年度の受講登録者は、学生が12名、職員が17名の計29名です。以前から手話への関心を持っていた学生や、卒業研究で他国の手話を取り上げている学生、図書館や大学附属病院において障害者への対応に活かした



いと考えている職員、大学での障害者の雇用の推進に役立てたいと考えている職員などが自主的に参加しています。

講師を務めるのは、大阪ろうあ会館の会員である里井美氏です。里井氏は、自身がろう者であり、日常的に手話を用いて生活をしておられます。第1回目は講習会を受講する上で知っておく必要のある注意事項を伝えるために手話通訳者が付きましたが、第2回目からは里井氏の手話のみで講習会が進みます。受講者には、手話を学ぶだけでなく、講習会を聴覚障害を有する人たちの生活について考えるきっかけとし、ひいては、各自が学び取ったことを自身の生活や業務へと活かすことを期待されています。

第1回目を終えた後には、受講者から口々に、12月まで続く講習会への期待が述べられていました。今後の手話講習会の様子については、障害学生支援室のHPに掲載されます。

障害学生支援室 HP

<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/shien/index.html>

(学生部キャリア支援課)

高等司法研究科・法学研究科附属法政実務連携センター主催公開講義開催

10月23日(木)、経済産業省特許庁総務部総務課長の広実郁郎氏を講師としてお招きし、高等司法研究科・法学研究科附属法政実務連携センター主催の公開講義「知的財産権を巡る我が国の現状と課題」を開催いたしました。

講師の広実氏は、不正競争防止法の全面改正にも直接携わってこられた、まさに特許庁の重鎮であり、知的財産権を巡る最近の動向について、その変遷をふまえてわかりやすく解説してくださいました。講義の具体的内容として



は、ハイテク製品等を中心に日本経済が置かれている厳しい状況、グローバル化が急激に進んでいくなかでの特許制度の日本とアメリカの現状、そして特許制度に関する今後の政策の方向性及び「世界特許庁」構想といった戦略等、この分野の第一人者だからこそ語ることでできる迫力あるものでした。

参加者からは、知的産業分野を学んでいく上でのインセンティブとなった、将来の目指すべき特許審査体制には大変興味をもった等の感想が寄せられました。

(法学研究科・法学部、高等司法研究科)

第21回国際開発関係大学院研究科長会議開催

第21回国際開発関係大学院研究科長会議が10月24日(金)、大阪大学大学院国際公共政策研究科を当番として、同研究科棟会議室において開催されました。

同会議には、文部科学省大臣官房国際課を始め、東京大学、横浜国立大学、政策研究大学院大学、名古屋大学、神戸大学、広島大学、早稲田大学、拓殖大学、大阪大学の各大学、独立行政法人国際協力機構、財団法人国際開発高等教育機構の関係機関から31名が出席しました。

会議では、文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室の浅井孝司室長から、「国際教育協力の動向」と題してご講



演をいただき、私学の2校からは、国際開発関係の取組状況等について、また、独立行政法人国際協力機構からは、統合後の新JICAにおける大学連携について、それぞれ説明がありました。その後、「科学研究費等の研究分野(分科)細目における[国際開発・国際協力]の新設について」及び「学生の就学援助について(留学生を中心として)」の2件の協議を行い、各大学の取組状況等をもとに、活発な情報・意見交換が繰り広げられました。

(国際公共政策研究科)

古典籍資料の取扱い研修会開催

附属図書館では、10月28日(火)に近畿地区国公立大学図書館職員を主たる対象として研修会「古典籍資料の取扱いにチャレンジ - 和装本編 -」を開催しました。

研修会には、学外、学内図書館職員のみならず、教員、他大学学生・院生計72名が参加しました。

研修会では、国立民族学博物館先端人類科学研究部の佐々木利和教授を講師として、「和書の取り扱い」と題した講義に続き、附属図書館所蔵の卷子本、軸物、和綴本、地図等の原資料を使用した取扱い実習を行いました。

参加者からは、「古典籍は遠い存在だったがもっと知りたいという気持ちになった」「取扱い方法を正しく理解、習得すればもっと利用に供することができると感じた」等好評でした。

近年の大学図書館は、古典籍から電子ジャーナル、データベース等様々な資料を扱っていますが、電子ジャーナル等デジタル資料に比べると古典籍の正しい取扱い方を実習する機会が少ないため企画されたものです。参加した教員からも、「学生・院生・一般の方々に古典籍資料の正しい



研修での実習の様子

扱い方を伝える必要を強く感じる」という意見が寄せられており、継続的な研修会を期待する声が高いものとなりました。

(附属図書館)

講演「アジアに対する法整備支援について」開催

10月30日(木)豊中キャンパス文系総合研究棟において、講演「アジアに対する法整備支援について」が、高等司法研究科学生生活等サポート委員会・ALECセンター共催により開催されました。



当日は、法務省法務総合研究所国際協力部長で本学OBの稲葉一生氏をお迎えし、アジアに対して行われている法整備支援について、プレゼンテーションと質疑応答が行われました。具体的な支援として、基本法の整備、法制度運用改善、法律家の人材養成が挙げられ、カンボジアに派遣されたJICA長期専門家の現地での活動の様子を取り上げたニュースの紹介もありました。法科大学院生のみならず、修了生、外国語学部、法学部や他学部の学生、教員を含め46名の参加がありました。講演終了後は、学生、教員を交えた意見交換会が行われました。英語や多言語を使って法整備支援をしたいという学生も出てきているなか、国際協力部の活動など、分かりやすく話され、学生達に向けて心強いメッセージをいただきました。

(高等司法研究科)

平成20年度大阪大学特志解剖体追悼法会実施

10月31日(金)、四天王寺本坊(大阪市天王寺区)において、平成20年度大阪大学特志解剖体追悼法会が執り行われました。

この法会は、系統解剖及び病理解剖のために大阪大学に御献体いただいた方々を追悼するもので、毎年、四天王寺で実施しているものです。

当日は曇り空の中、過去1年間に献体された方々の御遺族をはじめ医学部及び歯学部の解剖学関係各教員並びに本年度解剖実習をした両学部の学生等、関係者約500名の参加者がありました。

法会では、平野俊夫医学部長、米田俊之歯学部長及び両学部の学生代表が慰霊の詞を捧げた後、僧侶の読経の中、



慰霊の詞を捧げる平野学部長



納骨法要にて御遺族に挨拶する山下教授

両学部教員代表、御遺族代表、大阪大学白菊会会長及び両学部学生代表の焼香に続いて参列者の焼香が行われました。次に、分子神経科学講座の山下俊英教授から参列者に対して挨拶があり、厳肅な雰囲気の中に閉会となりました。

また、法会終了後、大阪市北区長柄の大学墓地において、昨年度の解剖実習のために献体された方々のうち、大学墓地に埋葬を希望されていた方々の納骨法要が営まれ、御遺族及び大学関係者の見守りの中で15柱の御遺骨が納骨され、滞りなく予定の行事が終了しました。

ここに改めて、御遺族の方々に感謝を申し上げますとともに故人の御冥福を心からお祈りいたします。

(医学系研究科・医学部、歯学研究科・歯学部)

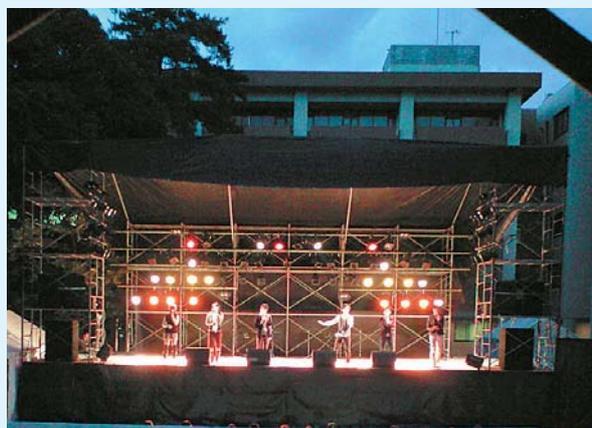
キャンパスニュース

第49回まちかね祭開催

11月1日(土)~3日(月・祝) 大阪大学豊中キャンパスにて第49回まちかね祭を行いました。今年のテーマである「煌~きらめき~」をもとに学生が主体となって作り上げた大学祭は連休と重なり、学内だけでなく学外からも多くの来場者が集まり例年以上の盛況が見られました。

『アンドロイドサイエンス 人間を知るためのロボット研究』と題した講演会では工学研究科の石黒 浩教授の講演に学生から一般の来場者まで多くの方が集まり、講演に耳を傾けていました。

ステージでは多くのサークルが演奏や演技を行った他、大連鎖と題してレーザーショーや阪大内のサークルに協力



してもらおうエンディングなど様々な企画を行い、大学祭を盛り上げてくれました。

模擬店では学生が熱心に呼び込みをしている姿が目立ち、メインストリートを賑わせていました。

その他にも大学のいたるところでさまざまな企画が行われ、まちかね祭に煌きを与えてくれました。三日間とも天候に恵まれ、活気のある大学祭となりました。

最後になりましたが、この場をお借りして本年度のまちかね祭に協力していただいた関係者のみなさまに改めてお礼を述べさせていただきます。

(大学祭中央実行委員会)

大阪大学室内楽アンサンブル第7回演奏会開催

OUCE (大阪大学室内楽アンサンブル Osaka University Chamber Ensemble) の第7回演奏会が11月2日(日)に、大阪大学コンベンションセンター MO ホールにて開催されました。

いちよう祭、吹田祭関連行事として、年2回、春と秋に演奏会を開いておりますが、大学関係者、近隣にお住まいの方などを中心に160名の方に来ていただくことができました。

今回は、オール室内楽のプログラムで、あまり本番で取



り上げられることのない隠れた名曲を紹介させていただきました。楽器編成の面でも、これだけ個性的な組み合わせの曲が一度の本番で聴くことのできる演奏会は稀有であり、ご好評をいただきました。最後のアンコールでは、メンバーそろって「崖の上のポニョ」を演奏し、大盛況のうちに演奏会を終えることができました。

今後も趣向をこらしたプログラムで、皆様に楽しんでいただける演奏会を企画してまいりますので、どうぞこれからもご支援いただき、演奏会へ足をお運びくださいますようお願い致します。

第8回演奏会は平成21年5月3日(日)を予定しております。大阪大学で、日常的に音楽を楽しむ時間を持ち、文化の種を育てることが、OUCEの目指すところでありますので、是非皆様お誘い合わせの上、お越しください。

OUCEの活動は、ホームページ (<http://orchestra.musicinfo.co.jp/ouce/>) をご覧ください。

ただいまメンバー募集中 特に弦楽器奏者の方、お待ちしております

(OUCE)

大阪大学第2回男女共同参画シンポジウム開催

多様な人材活用推進委員会（委員長：松繁寿和国際公共政策研究科教授）及び女性研究者キャリア・デザインラボは、11月4日（火）、基礎工学部シグマホールにおいて、大阪大学第2回男女共同参画シンポジウム「ワーク・ライフ・バランスの実現をめざして」を開催しました。

本シンポジウムは、平成19年度文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成プログラムとして採択された『次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成』の活動の一環として行われたもので、本学の教職員や学生はもとより、他大学、民間企業等の男女共同参画担当者など、120名を超える参加がありました。

シンポジウム開催にあたり、武田佐知子理事・副学長から開会の辞が行われ、鷲田清一総長からビデオによる挨拶が行われました。その後、学外からお迎えした4名の方による講演が行われました。始めに、産業界から「『個』が輝く時代」と題して、日本ロレアル(株)取締役副社長の坪田秀子氏から講演をいただき、続いて、パナソニック(株)人事グループ・グループマネージャーの須田勝也氏から「多様な人材の活躍を目指して～パナソニックのワーク・ライフ・

バランス支援の取り組み」と題して、それぞれの企業における男女共同参画に関する取り組みが紹介されました。

また、マスコミ界からは、「科学記者から見た男女共同参画 - ワークライフバランスの観点から」と題して、毎日新聞社論説委員の青野由利氏から、新聞記者と科学者の両方の視野から見たワーク・ライフ・バランスについて講演があり、引き続き、学界から「個人の幸せと組織の成長・発展を実現するワーク・ライフ・バランス」と題して、学習院大学大学院経済学研究科教授の脇坂 明氏から、ワーク・ライフ・バランスの考え方や取り組み、その手法、成果など紹介がされました。



パネルディスカッション
（左から脇坂氏、青野氏、須田氏、坪田氏、松繁教授）



活発な質疑応答

最後に多彩な講師陣によるパネルディスカッションが松繁委員長の司会により行われ、組織も個人も幸せになるような制度や社会の仕組みなどについて討論されました。会場からも積極的な意見や質問が出され、盛況のうちに幕を閉じました。

（多様な人材活用推進委員会、女性研究者キャリア・デザインラボ）

第1回適塾講座開催

第1回適塾講座が、9月2日（火）、10月7日（火）及び11月4日（火）に大阪大学中之島センターにおいて開講されました。



中川講師

この講座は、適塾顕彰事業の一環として毎年開講されていた適塾研究会が昨年で第10回の節目を

迎えたことをうけて、単なる講演会ではなく、講師と受講生とがともに適塾を考える講座として、今年より新たに開講するものです。

今回は、「幕末の大坂社会と適塾」をテーマに、適塾記念会評議員の村田路人文科学研究科教授のコーディネートのもと、中川すがね甲子園大学准教授が「適塾と大坂町人社会」、有坂道子京都橘大学准教授が「大坂の学芸社会と適塾」、そして村田教授が「幕府の大坂支配と適塾」と題してそれぞれ講演を行いました。

受講生は毎回熱心に聴講し、活発な質疑応答が行われ、最終日には受講生に対し修了証書が渡されました。

（総務部評価・広報課広報・社会学連携事務室）

「阪大・フォトニクス・ディ」シンポジウム開催

11月5日(水)、6日(木)に医学部銀杏会館阪急・三和ホールにおいて「阪大・フォトニクス・ディ」シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、鷲田清一総長の「知は力」の解釈、科学と技術に関する哲学的なお話、フォトニクスへの期待が開会挨拶として述べられ、続いて中原 徹文部科学省科学技術・学術政策局次長の来賓挨拶がありました。

引き続き、河田 聡フォトニクス研究センター長による「フォトニクスで何を指すか」の講演が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

講演では、ノーベル化学賞を受賞した下村 脩ボストン大学名誉教授の業績を紹介し、その研究が、化学、生物学、物理の融合したフォトニクスの研究に深く関わる顕著な例であることを紹介し、大阪大学フォトニクス先端融合研究拠点の目指すところが、まさに光とナノの先端融合研究であり、科学と技術を目指していることについて述べられました。引き続き、協働企業5社より、世界に伸びるフォトニクスとして、それぞれの目指すフォトニクスの夢とそれに向けて現在取り組んでいる研究の熱のこもった紹介がありました。

講演のあと、中原次長は、フォトニクス研究センター、レーザーエネルギー学研究センター、免疫学フロンティア研究センターを視察されました。



鷲田総長の開会挨拶

また、6日(木)には、銀杏会館大会議室において、国際光工学会(The International Society for Optical Engineering, SPIE)会長 Kevin Harding 氏による講演、「The Art of Invention ; Optics and the Recording of Knowledge」が開催されました。

講演では、記録媒体の歴史を、エジプト文明のパピルスから順にたどり、活版印刷、レコード、磁気記録、CD、Blue-Ray 等様々な媒体がいかに発明されたかについて、Kevin Harding 氏自らの光ディスクの開発談を交えながら、わかりやすく、また興味深く話をされました。

(工学研究科・工学部)

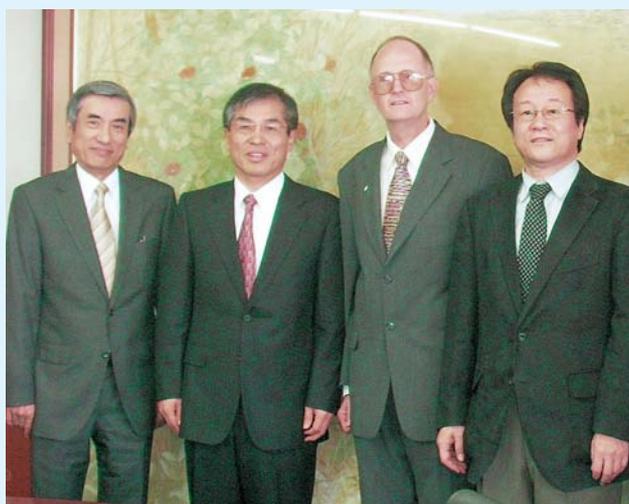
国際光工学会会長Kevin Harding氏が表敬訪問

11月6日(木)に、国際光工学会(The International Society for Optical Engineering, SPIE)会長 Kevin Harding 氏が西尾章治郎理事・副学長、辻 毅一郎理事・副学長を表敬訪問しました。

西尾および辻理事・副学長より、大阪大学の歴史、規模、研究教育活動・実績の詳細な紹介があり、Kevin Harding 氏より、活発で大規模なフォトニクス学会活動の説明とともに、相互の理解を深めることにより、今後の情報交換や可能な協力関係の進展が期待される旨を述べられました。

Kevin Harding 氏はまた、馬場章夫工学研究科長を表敬訪問し、大阪大学フォトニクス先端融合研究拠点を見学し、フォトニクス先端融合研究センター長河田 聡教授、副センター長民谷栄一教授等と、フォトニクスに関する情報交換や可能な協力を密に行っていくことを話し合いました。

(工学研究科・工学部)



Kevin Harding氏(左から3人目)

平成20年度基礎工学研究科英語特別コース入学式挙行

英語による科目履修及び研究指導により修士号及び博士号を取得できる基礎工学研究科英語特別コース博士前期課程及び博士後期課程の入学式が、11月11日(火)に基礎工学研究科において挙行されました。

式では、関係者32名が出席し、佐藤宏介教育担当副研究科長の司会のもと、戸部義人研究科長から式辞があり、

平成20年4月及び10月に入学した8カ国19名による記念スピーチの後、第3回日越国際大学交流学生セミナーで基礎工学研究科を訪問中の Nguyen Van Hieu 前ベトナム国立自然科学技術センター長アカデミー会員他6名のベトナム人教授ら来賓とともに記念写真を撮り、終了しました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



基礎工学部技術職員研修(第15回)実施

基礎工学部では、11月18日(火)に「基礎工学部技術職員研修(第15回)」を同学部会議室(A棟2階)において実施しました。

この研修は、教室系の技術職員及び特例嘱託技術職員を対象に、大学における技術職務全般についての視野を養わせ、その立場と責務を自覚させるとともに、自己及び相互啓発の機会を与えて、職員の資質と技術の向上を図り、職務能力の増進を促すことを目的に実施したものであり、研修会には基礎工学部をはじめ、情報科学研究科、極限量子科学研究センター、太陽エネルギー化学研究センターから計12名の参加がありました。



当日は、戸部義人学部長による開講式に始まり、基礎工学研究科の菅 滋正教授を講師に迎えての特別講演「放射光科学機器開発とその利用研究：我が国の技術力」に続いて、同研究科の堀 洋准教授を講師に迎えての特別講演「金属タンパク質の電子スピン共鳴(EPR)」が行われました。午後からは総合学術博物館の施設見学の後、受講生による技術発表が行われ、活発に意見交換がなされました。最後に、平尾雅彦研修実行委員会委員長から修了証書の授与が行われ、研修を無事修了いたしました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

キティちゃん 小児医療センターへふれあい訪問

11月14日(金)にサンリオのキティちゃんが、入院中の子供達やお母さん達が元気になってくださるようにとふれあい訪問に来てくれました。この訪問は「ハローキティ、病院・施設応援訪問プロジェクト」で、「辛いとき、がんばらなければならないとき、どんなときも、傍にキティちゃんがいる、ひとりじゃない。一緒にがんばろう。」とのメッセージを届けるための活動で、病院、施設、災害被災地などを訪問する企画です。

前日からボランティアの方々と一緒に歓迎の飾り付けをしたプレールームにキティちゃんが立つと、子供達は大喜び。順番に歓迎のお花を渡すと、キティちゃんが一人ずつ



握手やハグをして、プレゼントを渡してもらおうと子供達の目はきらきらと輝きを増しました。

その後プレールームに来られない重症の子供達の病室でもふれ合いの時間を持ってくれました。その中で重い疾患の少女はキティちゃんが渡してくれたプレゼントを持つと少しずつ左手を動かし、右手で手を振る動作をしてくれました。術後、体を動かすことが出来なかった少女が、体を動かしたことで、「良かったね。手が動いたよ。」と主治医や看護師達はもうびっくり。キティちゃんの暖かい心の大きなパワーを実感させてもらった出来事でした。

(医学部附属病院)

公開講座フェスタ2008開催

大阪大学と適塾記念会が参画する HSN (阪神奈大学・研究機関生涯学習) ネットと大阪府立文化情報センターとの共催で行う市民向け文化・生涯学習講座「公開講座フェスタ」が、11月4日(火)から11月22日(土)まで同センターさいかくホールにおいて開催されました。

今回は、「未知への誘い - 現在・過去・未来 - 」を総合テーマに、本学と適塾記念会は11月14日(金)に熊谷貞俊名誉教授が「暮らしと情報通信」と題して講演を行いました。

当日は、多数の受講者が熱心に聴講し、大変盛況な講座となりました。

(総務部評価・広報課広報・社会学連事務室)



平成20年度名誉教授会開催

毎年恒例の名誉教授会が、11月17日(月)リーガロイヤルホテル「山楽の間」において、名誉教授81名及び名誉教授会から招待された総長、理事、監事及び部局長等40名の出席のもとに開催されました。

世話人の鈴木 胖名誉教授(工)の司会による今年の名誉教授会は、春に開催された名誉教授招待懇談会以降に逝去された名誉教授への黙禱の後、秋の褒章並びに叙勲を受けられた名誉教授が紹介され、受章者を代表して瑞宝中綬章を受章された園田 昇名誉教授(元副学長・元工学部長)から挨拶がありました。



園田名誉教授



大竹所長

続いて、大竹文雄社会経済研究所長から「日本の不平等」と題し講演が行われ、また、鷲田清一総長からは、教育・研究・学連携活動及びキャンパスの整備状況など、大学の近況について話がありました。

その後開催された懇親会では、鷲田総長による出席部局長等の紹介の後、泉 美治名誉教授(産)の発声による乾杯で始まり、お互いの近況報告など旧交を温めながら、終始和やかな雰囲気の中で懇談が行われました。



鷲田総長



泉名誉教授



名誉教授会世話人と歴代総長による万歳の三唱
(写真左から、鈴木名誉教授、宮原前総長、岸本元総長、櫻井名誉教授、熊谷元総長、金森元総長及び鷲田総長)

最後に名誉教授会世話人(鈴木名誉教授及び櫻井 洸名誉教授(産))と歴代総長(熊谷信昭元総長、金森順次郎元総長、岸本忠三元総長、宮原秀夫前総長及び鷲田清一総長)を中心に万歳を三唱し盛会のうちに閉会しました。

(総務部総務課)

産業科学研究所環境美化(一斉大掃除)実施

産業科学研究所では、毎年恒例の所内環境美化のための一斉大掃除を11月25日(火)に実施しました。施設委員会



委員長の谷村 克巳教授の挨拶に始まり、初冬の柔らかい陽射しながらも肌寒い中、総勢300名余りもの教職員及び学生

が一体となって、約2時間にわたり、産研敷地内及び周辺一帯の通路の落ち葉拾いを中心に、排水溝などの土砂上げ、ゴミの収集作業などを行い、ビニール袋や土嚢袋に収められた大量の落ち葉や土砂等を4台のリヤカーを使って汗水流して運搬しました。

清掃が終わった後の所内は、見違えるようにきれいになり、参加者一同爽やかな気持ちとなりました。

また、安全衛生の観点から研究室周辺の廊下やエレベータ付近等についても、整理整頓を行い、環境美化に対する意識向上を図ることができました。

(産業科学研究所)

防災訓練等実施

11月11日(火)箕面キャンパスにおいて、平成20年度大阪大学防災訓練を実施しました。今年度の訓練は、箕面市消防本部と合同で企画・実施したものです。訓練は、平日の昼間帯に、東海、近畿、及び四国の広い範囲で震度6弱の地震が発生したことを想定し、避難訓練、災害対策本部



トリアージ訓練の様子

設置訓練、初期消火訓練、応急救護訓練等を行いました。また箕面市消防本部の隊員による、はしご車救助訓練、放水訓練、応急救護所(エアータント)設置訓練、トリアージ(治療を優先すべき患者の選別)訓練等が行われました。

当日は、箕面地区の総括安全衛生管理者である武田佐知子理事・副学長、杉本孝司外国語学部長をはじめ、関係部局の学生、教職員約150名の参加がありました。



はしご車による救助訓練の様子

(安全衛生管理部)

平成20年度事務局消防訓練等を11月19日(水)事務局職員約120名が参加して実施しました。

消防訓練は、事務局の本部共通棟2階中央財務部事務室湯沸室から火災が発生したことを想定し、「通報訓練」、「消火訓練」及び「避難誘導訓練」を行いました。

引き続き、事務局前庭にて「水消火器による初期消火訓練」を行った後、事務局玄関前にて「屋内消火栓の取扱訓練」を行いました。

消防訓練後、月岡英人理事・事務局長から今回の消防訓練を踏まえて、今後は火災予防に関して十分に対応できるようにしていきたいとの挨拶がありました。



当日は寒い一日となりましたが、参加者全員、最後まで熱心に訓練に取り組んでいました。

(財務部資産決算課)

産業科学研究所では、10月の大阪大学安全衛生強化月間に合わせて、総合的な消防訓練を10月10日(金)に茨木



市消防署の指導のもと実施しました。

今回の訓練は、第1研究棟5階の研究室で火災が発生したことを想定した通報訓練及び避難訓練を実施した後、磯山悟朗教授(安全衛生管理委員会委員長)の司会により、山口明人所長(防火対策委員会委員長)からの訓示後、茨木消防署員による簡易担架を利用したけが人の搬送方法及び抱え方などの指導を受け、教職員、学生による実演訓練、最後に茨木市消防署員による講評と、仲田昇事務部長(防火管理者)から危険物の廃棄等について指導がありました。

教職員及び学生等約200名が参加し、けが人の搬送方法習得と火災予防の意識の高揚が図られました。

(産業科学研究所)

たけのこ保育園で消防訓練実施

12月4日(木)に、たけのこ保育園で消防訓練を実施しました。保育園は消防法で個別に消防訓練が義務づけられている施設で、今年4月に開園したたけのこ保育園で初めての訓練となりました。当日は、吹田市北消防署の4名の消防士の方から、避難誘導の仕方や消火器の使い方、防火管理の心構えなど、約1時間にわたって指導を受けました。



参加した保育士さんをはじめとする保育園のスタッフが真剣に訓練する中で、最初は非常ベルに驚いていた園児たちも、消防士の方に順番にポンプ車に乗せてもらうと大喜びの顔になり、スタッフ、園児ともに実りある訓練となりました。

(たけのこ保育園・総務部企画推進課)

「業務改善アイデア賞」表彰式開催

「業務改善アイデア賞」表彰式が11月20日(木)、総長室において行われました。

「業務改善アイデア賞」は、「国立大学法人大阪大学における業務改善方法の公募及び表彰に関する要項」等に基づき教職員から提案された業務改善のアイデアを、事務改革推進本部業務改善WGにおいて審査し、採用が決定されたものの中から特に業務改善に資すると認められた提案に対して授与される賞です。

今回は、平成19年10月から平成20年9月までに採用が決定された6件(応募件数21件)を対象として選考を行い、以下の3件の提案に対して優秀者賞及び特別賞が授与されました。

表彰式では、鷲田清一総長、西田正吾理事・副学長(事務改革推進本部長)、月岡英人理事・事務局長(業務改善WG議長)の出席のもと、鷲田総長から表彰状が手渡され



ました。

また、これら3件の提案に対しては副賞として各5万円が支給されます。

(事務改善推進室)

表彰	所属	職名	氏名	提案題名
優秀者賞	レーザーエネルギー学研究センター	事務職員 特任事務職員	西谷 太 樫元 佳奈	会計年度を越える外国人研究員の労働契約について
	レーザーエネルギー学研究センター	特任事務職員	樫元 佳奈	サポートオフィスが行っている在留資格認定証明書交付に関する業務について
特別賞	附属図書館 図書館企画課	係長	森 継 明 広	産学官連携問題委員会等規程の廃止

平成20年度永年勤続者表彰式挙行

平成20年度永年勤続者表彰式が、11月21日(金)コンベンションセンター会議室1において、受表彰者45名のうち34名の出席のもとに挙行されました。

式は、鷲田清一総長から受表彰者一人一人に表彰状が授与された後、祝辞が述べられ、続いて、受表彰者を代表して歯学部附属病院の嵯峨山順子氏が答辞を述べ閉式しました。



今年度の受表彰者は、次のとおりです。

橘 弘 治 (事)	澤 田 昌 良 (医病)
宮 本 博 文 (事)	門 脇 裕 子 (医病)
松 本 勝 昌 (事)	出 口 松 夫 (医病)
小 林 裕 美 (事)	木 村 茂 樹 (医病)
吉 田 浩 之 (事)	豊 川 真 弘 (医病)
吉 田 寛 仁 (事)	野 原 孝 子 (医病)
尾 崎 勉 (事)	加 藤 哲 (医病)
都々木 真 (事)	平 谷 幸 大 (医病)
天 野 登 美 子 (事)	佐々木 英 人 (医病)
根 未 栄 一 (事)	馬 場 政 伸 (歯)
浅 井 達 夫 (事)	萩 田 仁 彦 (歯)
大 西 富 美 子 (文)	嵯峨山 順 子 (歯病)
平 井 修 二 (外)	高 野 幸 子 (歯病)
梅 原 みゆき (法)	西ノ上 和 彦 (理)
田 墨 恵 子 (医病)	小 林 寺 晴 美 (歯病)
柳 川 千 里 (医病)	岩 永 力 男 (基)
岡 田 美 紀 (医病)	矢 賀 徹 恵 (基)
田 口 恵 子 (医病)	松 井 三 哲 (言)
松 田 千 恵 己 (医病)	華 井 哲 雄 (産)
筑 木 明 子 (医病)	竹 上 学 一 (医病)
上 田 要 一 (医病)	米 野 元 則 (C S C D)

(総務部人事課)

知の構造化ワークショップ開催

サステナビリティ・サイエンス研究機構(RISS)は、10月11日(土)に先端科学イノベーションセンターにおいて、知の構造化ワークショップを開催しました。

RISSは8分野に分かれ、研究ワークショップ(WS)を展開しており、知の構造化WSはその一つで、個々のWSでのサステナブルな社会形成への知の融合への方法論の提示を目的として、昨年からのサステナビリティ学のオントロジーの開発を進めています。オントロジーは、元来、哲学用語で「存在に関する体系的理論」のことで、オントロジー工学は、これをコンピュータが理解可能な形式で表現する工学的応用に帰するものです。

では、人や社会は、オントロジーを組み込んだ情報システムにどのような効能を期待しているのでしょうか。この点で知識科学やセマンティック・ウェブ技術の専門家は、ある程度共有してきたといえるでしょう。しかし、社会的共

有という難しいのではないのでしょうか。このような課題を受け今回は、「サステナビリティ・オントロジーの利点と効果を見つめ直す」と題し、オントロジーの持つ利点と効果について議論しました。

慶応義塾大学の福井弘道教授、東京大学のクレイネス准教授を招き、クレイネス准教授はウェブ上の協調型知識共有基盤開発からみたオントロジーの効用、福井教授はデジタル・アースの構築・利用に関する講演をされました。

同講演を受け、RISSで開発中のサステナビリティ・オントロジーのフレームワークと進捗について報告。最後は、福井教授、クレイネス准教授とWSの主査の溝口理一郎産業科学研究所教授との間で活発な議論が交わされ、将来的に各自が関わるオントロジー開発と更新状況を報告することを確認しました。

(サステナビリティ・サイエンス研究機構)

平成20年度適塾記念講演会開催

今年度の適塾記念講演会が適塾記念会との共催で、11月26日(水)に大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホールにおいて開催されました。

当日は、鷲田清一総長(適塾記念会会長)からの挨拶に始まり、橋爪節也総合学術博物館教授が「イメージとしての“大大阪” - モダン都市はいかに語られようとしたか - 」



橋爪教授



大久保名誉教授

また、大久保昌一名誉教授が「持続可能な都市像」と題してそれぞれ講演を行いました。

約90名の受講者が熱心に聴講し、終了後も活発な質問が出るなど、大変盛況な講演会となりました。

(総務部評価・広報課広報・社会学連携事務室)

TA(ティーチング・アシスタント)による広報活動

昨年に引き続き、広報誌等の大学の広報活動に携わるTAとして、浅野景子さん(医学系研究科保健学専攻博士前期課程1年)を採用しました。今回は、大阪大学が開催している公開講座等実際に参加し、参加者の視点からの取材報告を行います。

ロボット演劇「働く私」を鑑賞して

(11月25日・21世紀懐徳堂にて開催)

以前までの私のロボットに抱くイメージとは、人間がロボットの感情などは気にせず命令した要望に、ロボットは黙ってそれに応える、という“便利な機械”でした。近年、とても人間らしい外見の二足歩行ロボット「アシモ」が話題になりましたが、それでも人間のお手伝いロボットというイメージであり、ロボットに感情があり人間のコミュニケーションの相手になるというのはアニメの世界の話だと思っていました。しかし、今回の演劇を見て、私のロボットに対するイメージが変わりました。今回の舞台に登場した「wakamaru」は、見た目はまさにロボットです。しかし、wakamaruには感情があり、表情があるように見えました。私には、wakamaruが“ただのロボット”ではなく、人間と同じような“悩みを抱える存在”に見えました。また、ロボットと人間の演劇であることを忘れてしまう程、wakamaruの演技はとても自然に感じました。ロボットのタケオとモモコだけのシーンでも、自然と会話に聞き入ることができました。最初はロボットのすごさに驚き、だんだんストーリーの展開にワクワクするようになり、最後はストーリーに感動することができました。20分では少し物足りないと思う程、演劇を楽しむことができました。

近い将来、家の中にロボットが居て、お互いを気遣いながら会話を楽しんでいる光景が見られるようになるかもしれないと今回の演劇を見て、私はそう思うようになりました。

適塾記念講演会を聴講して

(11月26日・中之島センターにて開催)

私は、これまで“大大阪”とは、人口が多く、交通網も整備されている、いわゆる“都会である大阪”というイメージをもっていました。しかし、橋爪先生の講演を聞き、“大大阪”という言葉が作られた時代の“大大阪”とは、単に都会であるという意味ではなく、新しい都市を作ろうとする市民の強い自覚が含まれた言葉であったのだと感じました。また、大阪は様々な芸術や文化の歴史があることも今回の講演で再認識することができました。これからも、大阪で発祥した芸術や文化を大切にしつつ、“GREATER OSAKA”ではなく“GREAT OSAKA”を目標に大阪がどんどん発展し続けたいと思いました。また大久保先生の講演では、大阪のみならず日本の近代都市政策が、ずっと人間中心主義で行われていたということを改めて実感しました。私たちはずっと便利な都市になることを都市づくりに求めてきたと思います。しかし、これからは共生主義に立ち、便利で快適な都市、持続可能な都市(サステイナブル・シティ)を目指す都市づくりが大切であると解かりました。

今回の適塾記念講演会を聴講し、これからの大阪の発展にとって何が大切であるかを考えることができました。

摂津市と連携協力に関する包括協定締結

大阪大学では「地域に生き世界に伸びる」の基本理念のもと、地域・社会との緊密な連携を推進しており、平成16年10月の吹田市との包括協定締結以降、平成19年度には豊中市、箕面市、茨木市、大阪市、池田市、堺市との包括協定を締結し、8市目となる摂津市と同様の協定を締結しました。これまで同市とは、「まちづくり事業」に関する調査協力や、同市主催の市民フォーラムでの講演等での協力関係があり、今回の協定締結を機に、今後、文化・教育・環境・産業・まちづくり等の様々な分野において、連携がさらに深まっていくことが期待されます。

調印式は、12月1日(月)大阪大学役員会議室において、大阪大学からは鷲田清一総長のほか関係理事が、摂津市からは森山一正市長及び関係役員が出席して行われました。
(総務部評価・広報課広報社会学連携事務室)



調印後、森山市長(右)と握手する鷲田総長

平成20年9月～11月の表敬訪問

9月25日(木)、イスラエル・ガリラヤカレッジの Joseph Shevel 大学長が、鷲田清一総長を表敬訪問しました。ガリラヤカレッジは、1987年に創立され、独立行政法人国際協力機構(JICA)等の国際機関から援助を受けながら、農業・環境・安全保障等の10の分野におけるマネジメント・プログラムを世界の政府職員や研究者を対象に行っています。



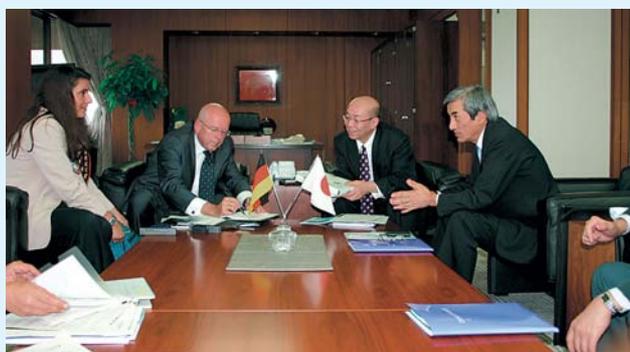
9月30日(火)、ドイツ・アウグスブルグ大学の Prof. Dr. Horst Hanusch 副学長と Prof. Armin Reller マテリアルサイエンス応用センター理事が、辻 毅一郎理事・副学長を表敬訪問しました。アウグスブルグ大学と部局間協定がある基礎工学研究科からは、真島和志教授と多田博一教授が同席しました。また、新たな研究交流について懇談するために、川合知二産業科学研究所教授が同席しました。



10月6日(月)、セルビア共和国・ベオグラード大学の Branko Kovačević 学長夫妻と Aleksandra Kovac 駐セルビア共和国大使館三等書記官が、辻理事・副学長を表敬訪問し、将来的な部局間協定等の可能性などについて、懇談をしました。表敬終了後は、三間図興レーザーエネルギー学研究センター長の案内で、同センターを施設見学しました。



10月7日(火)、ドイツ・ベルリン自由大学の Dieter Lenzen 大学長(ドイツ学長会議副委員長)と Marijke Wahlers ドイツ学長会議事務局国際交流課長が、鷲田総長を表敬訪問しました。ベルリン自由大学と本学の生命機能研究科は、2004年に部局間協定を締結しています。



10月27日(月)、米国・カルフォルニア大学デービス校の Larry N.Vanderhoef 学長が、鷲田総長を表敬訪問しました。UCデービス校からは、Robert A.Kerr 副学長補佐・海外同窓会推進担当、Zuhair Munirk 名誉教授・前工学部長、Enrique J.Lavernia 現工学部長が同席し、今後の学生交流や研究者交流について、意見交換がなされました。



11月12日(水)、フランス・リヨン第三大学のユーグ・フルシロン学長とクレール・ドダン同大学准教授が、鷲田総長を表敬訪問しました。リヨン第三大学は、フランス第2の都市に1896年に設立されたリヨン大学連合3大学の1つです。本学からは、辻理事・副学長、松川正毅高等司法研究科長、石野隆史学生交流推進課長が同席し、今後の学生交流について意見が交換されました。



キャンパスニュース

11月12日(水)、イラクの大学から、Professor Abdulridha A. Alwan パラサ大学副総長、Professor Ahmed About Khalifa ミサン大学副総長、Professor Sabah Naseer Alwachi バグダッド大学国際関係部長の3名が、鷲田総長を表敬訪問しました。小泉潤二理事・副学長、西尾章治郎理事・副学長、辻理事・副学長、栗本英世グローバルコラボレーションセンター長も懇談に加わり、将来的な研究・学生交流の可能性について懇談しました。



11月13日(木)、中国教育部大学教職員訪日代表団10名が本学を来訪し、留学生受入状況に関する情報収集や留学生交流の推進について、辻理事・副学長、菊野亨留学生センター長、古川裕外国語学部教授、石川真由国際企画推進本部准教授、瀬戸山晃一留学生センター准教授、難波康治留学生センター准教授、石野隆史学生交流推進課長と意見交換しました。



11月21日(金)、ベトナム・ハノイ国家大学の MAI Trong Nhuan 学長と PHAM Hung Viet 環境技術・持続可能開発研究センター所長が、鷲田総長を表敬訪問しました。同大学と本学は、2002年に大学間交流協定を締結し、工学研究科環境・エネルギー工学科とは、JSPSの拠点大学方式の交流事業として、研究交流プログラムを10年間実施しています。



秋の褒章と叙勲

平成 20 年度の秋の褒章及び叙勲受章者が発表され、本学関係の受章者は次の方々です。

増原	宏	(名)	誉	教	授)	紫綬褒章
難波	精一郎	(名)	誉	教	授)	瑞宝重光章
園田	昇	(名)	誉	教	授)	瑞宝中綬章
吉田	正勝	(名)	誉	教	授)	瑞宝中綬章
大塚	穎三	(名)	誉	教	授)	瑞宝中綬章
松本	圭史	(名)	誉	教	授)	瑞宝中綬章
池田	修	(大阪外国語大学)	名	誉	教授)	瑞宝中綬章

(総務部人事課)

藤田一郎教授「日本神経科学会時實利彦記念賞」受賞

生命機能研究科の藤田一郎教授が、「両眼立体視の脳内機構の解明」に関する研究で、平成 20 年度の日本神経科学会時實利彦記念賞を受賞しました。

時實利彦記念賞は、日本の脳科学の草分けであり、名著「脳の話」(岩波新書)の著者としても知られる故時實利彦博士の業績を記念して設立された賞で、システムレベル、認知レベルの脳機能研究の優れた業績に対して授与されるものです。受賞式は7月9日(水)に東京国際フォーラムで開催された日本神経科学会総会において行われ、受賞講演が、「両眼立体視：2つの目と2つの皮質経路でみる3D世界」というタイトルで、多くの聴衆を前に行われました。

2つの目で見える世界は、片目で見るときには感ずることのできない明白な立体感を伴います。これは、左右眼における網膜像のわずかなずれに基づいて、脳が視覚対象の3次元構造を再構成するからです。これまで、両眼立体視機能は、大脳皮質の中でも頭頂葉経路で担われていると考えられてきました。藤田教授の研究グループは、側頭葉経路が両眼立体視に大きく関与していることと、両経路の役割分担のあり方を明らかにし、大脳皮質の機能構成に関する考え方に変更を迫りました。講演では、どのようにして両眼立体視による3次元世界の奥行きに関する情報が神経細胞の活動により表現され、多層の神経回路により行動に利用できる形に変換されているかに関する最新の研究成果が紹介されました。

(生命機能研究科)



大竹久夫教授「バイオインダストリー協会賞」受賞

工学研究科生命先端工学専攻生物化学工学領域の大竹久夫教授が、財団法人バイオインダストリー協会の「平成20年度バイオインダストリー協会賞」を受賞しました。本賞は、平成2年度に創設された有馬啓記念バイオインダストリー協会賞の趣旨を継承発展させて、平成19年度に設立されたものです。バイオサイエンス、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの分野における研究・技術開発および産業化推進活動において、バイオインダストリーの健全な発展に大きな貢献をなし、または、今後の発展に大きな貢献をなすと期待される業績をあげた個人、小人数のグループまたは組織に贈られています。

今回の受賞は、大竹教授が長年取り組まれてきた微生物のリン酸代謝に関する基礎研究とリン資源リサイクル技術開発への貢献に対して授与されたものです。微生物のポリリン酸蓄積機能に着目し、資源の枯渇が懸念されている天然リン鉱石の代替物として、バイオリン鉱石と呼ばれる人工リン鉱石が製造できることを、一連の産学連携研究開発事業により実証したことが、高く評価されました。

授賞式と受賞講演は、10月15日（水）にパシフィコ横浜で開催された「バイオジャパン2008」において行われました。

（工学研究科・工学部）

バイオインダストリー協会賞・バイオインダストリー協会産学交流部会奨励賞
発酵と代謝研究奨励金・化学素材研究開発振興財団記念募金「グラント」研究奨励金
合同授与式および発表会
財団法人バイオインダストリー協会



大竹教授（中央）

森田清三教授「The Albert Nerken Award」受賞

工学研究科電気電子情報工学専攻原子分子操作組立領域の森田清三教授（低温センター長兼務）が10月22日（水）にThe Albert Nerken Awardを受賞しました。本賞は、重要な技術的課題の解決による顕著な功績に対して、American Vacuum Society（AVS：アメリカ真空学会）が授与するProfessional Awardsの一つであり、森田教授のような非会員も含めた世界中の研究者から毎年1名を選んで授与されますが、AVSのProfessional Awardsの日本人の受賞は、1994年の石丸肇氏と2004年の高柳邦夫氏について3人目です。

今回の受賞は、森田教授が長年取り組んできた超高真空原子間力顕微鏡で個々の原子を見る（Science 1995）だけでなく、個々の原子の原子種を非破壊に識別（Nature 2007）して、選んだ特定の原子種をデザイン通りの位置に原子操作して、多元素からなる複雑なナノ構造体を室温で構築する（Nature Materials 2005, Science 2008a）ための技術開発と応用研究を行ってきた功績（Science 2008b）が、国際的に高く評価されたことによるものです。

授賞式典は、アメリカのボストンで開催された「第55回アメリカ真空学会国際シンポジウム（the 55th AVS International Symposium）」で行われ、授賞式と受賞スピーチの後で受賞記念レセプションも行われました。受賞式典の前日には受賞記念講演と元AVS会長（1987年）のPaul H.Holloway先生による約1時間の受賞インタビューが行われました。この受賞インタビューはアメリカ真空学会の歴史的資料として、音声インタビューと文書化したものの両方が歴史資料館に保存されWebで公開される予定です。

（工学研究科・工学部）



受賞後の受賞スピーチを行う森田教授

中谷和彦教授「大阪科学賞」受賞

産業科学研究所の中谷和彦教授（精密制御化学研究分野）が、第26回「大阪科学賞」を受賞しました。

同賞は、創造的科学技术の振興を図り、21世紀の新たな発展と明日の人類社会に貢献することを目的として、大阪府、大阪市、大阪科学技術センターの三者により、昭和58年度に創設されました。

中谷教授は、「DNAのミスマッチ塩基対を認識する人工分子の創製に関する研究」が評価されての受賞となりました。10月29日（水）に大阪科学技術センターで表彰式と記念講演会が行われました。

（産業科学研究所）



石井克典特任研究員「平成20年度日本レーザー医学会総会賞」受賞

工学研究科環境・エネルギー工学専攻の石井克典特任研究員（21世紀COEプログラム「細胞・組織の統合制御に向けた総合拠点形成」）が、「平成20年度日本レーザー医学会総会賞」を受賞しました。

日本レーザー医学会総会賞は、レーザー医学の基礎または臨床応用に関する貴重な研究を行い、その論文が特に優秀な研究者に授与されるものです。

受賞研究は「波長5.75 μm のナノ秒パルスレーザーによる低侵襲なレーザー血管形成術の開発」です。粥状動脈硬化病変の主成分であるコレステロールエステルに特異的に吸収される波長5.75 μm のレーザーを用いて、病変を選択的に治療可能なことを実験的に示しており、従来法より安全な血管内レーザー治療を実現する画期的な技術を開発していることが評価されました。

授賞式は第29回日本レーザー医学会総会期間中の11月15日（土）に、東京都八王子市の東京工科大学八王子キャンパス片柳研究所において行われました。

（工学研究科・工学部）



大阪大学共通教育賞表彰式挙行

大学教育実践センターでは、11月6日(木)に事務局301会議室において平成20年度第1学期大阪大学共通教育賞表彰式を行いました。

この大阪大学共通教育賞は、全学共通教育の授業を担当する本学教員及び非常勤講師を対象として、優れた授業を実践した教員、優れた教科書等を著した教員、優れた著述を行った教員、並びに全学共通教育の実施運営に顕著な功労のあった教員を表彰することによって、共通教育の質的向上を図ることを目的に平成14年度に制定されたもので、今回が13回目の表彰となりました。

また、同一カテゴリーで5回目の受賞は、大阪大学共通教育賞特別賞として表彰いたしました。

この顕彰制度が教育評価の先駆的な試みとして、本学の教育の発展に寄与できることを願うものです。

大阪大学共通教育賞の選考は、全学の教員及び学生を対象に行ったアンケート結果に基づき、選考委員会において、教育上の多大な努力や優秀な教育技術等を総合的に評価した結果、16名の教員と1団体が選出されました。

表彰式では、鷲田清一総長から表彰状と記念品の授与が行われ、小泉潤二理事・副学長、月岡英人理事・事務局長、工藤眞由美大学教育実践センター長、眞鍋昭治郎副センター長、小田雅博事務長も列席し、受賞者を祝福しました。

(大学教育実践センター)



情報科学研究科学生チームがIVRCで「審査員特別賞」「各務原市民賞」受賞

情報科学研究科岸野研究室の学生チーム「アトム」(尾崎麻耶さん、吉田愛さん、菊川哲也君、藤田和之君、深澤遼君)が11月7日(金)から8日(土)にかけて岐阜県各務原市テクノプラザにおいて行われた第16回国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト(IVRC2008)本大会に参加し、「審査員特別賞」と「各務原市民賞」を受賞しました。

IVRCは1993年より続くバーチャルリアリティを活用したオリジナル作品による学生対抗の大会で、IVRC2008本大会では書類審査、プレゼンテーション審査、東京予選大会を通過した日本代表5作品とフランス代表1作品、計6作品が実演展示されました。

チーム「アトム」の作品「アソブレラ」は傘をさしたときに柄から伝わる雨の振動を電磁石により味わうことができるものです。

シンプルな機構ながら高い振動の再現性を実現している点において高評価を得ており、審査員による「審査員特別賞」に加え、一般来場者の人気投票で1位の作品に贈られる「各務原市民賞」を獲得しました。

(情報科学研究科)



新部局長紹介

伊藤 正 (いとう ただし)

ナノサイエンスデザイン教育研究センター長



【略歴】

- 昭44. 3 大阪大学基礎工学部材料工学科卒業
- 46. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻修士課程修了
- 49. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士課程修了
- 49. 3 工学博士(大阪大学)
- 49. 4 日本学術振興会奨励研究員
- 49. 6 東北大学助手理学部
- 58. 4 東北大学助教授理学部
- 平 5. 4 東北大学教授工学部
- 9. 4 東北大学教授大学院工学研究科
- 10. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 13. 4 大阪大学基礎工学部物性物理工学科長(平14.3まで)
- 16. 4 大阪大学研究推進室員(平20.3まで)
- 20.12 大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センター長(平22.3まで)

新教授紹介

浦井 憲 (うらい けん)

大学院経済学研究科



【略歴】

- 昭60. 3 大阪大学経済学部経済学科卒業
- 62. 3 大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
- 63. 3 大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程退学
- 63. 4 大阪大学助手社会経済研究所
- 平 3. 4 京都産業大学講師経済学部
- 7. 4 大阪大学助教授経済学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院経済学研究科
- 17.11 博士(経済学)(大阪大学)
- 19. 4 大阪大学准教授大学院経済学研究科
- 20.11 大阪大学教授大学院経済学研究科

所 属：大学院経済学研究科政策専攻応用経済講座
 専門分野：数理経済学

水口 裕之 (みずぐち ひろゆき)

大学院薬学研究科



【略歴】

- 平 3. 3 大阪大学薬学部薬学科卒業
- 5. 3 大阪大学大学院薬学研究科応用薬学専攻博士前期課程修了
- 8. 3 大阪大学大学院薬学研究科応用薬学専攻博士後期課程修了
- 8. 3 薬学博士(大阪大学)
- 8. 4 大阪大学微生物病研究所神経ウイルス分野研究員
- 9. 4 米国ワシントン大学医学部Senior Fellow
- 10. 7 国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部研究員
- 14. 7 国立医薬品食品衛生研究所遺伝子細胞医薬部主任研究官
- 16. 4 国立医薬品食品衛生研究所大阪支所基盤研究第3プロジェクトチーム副プロジェクト長
- 17. 2 大阪大学招へい助教授大学院薬学研究科
- 17. 4 独立行政法人医薬基盤研究所基盤の研究部遺伝子導入制御プロジェクトプロジェクトリーダー
- 19. 4 大阪大学招へい准教授大学院薬学研究科
- 神戸大学大学院医学系研究科客員准教授
- 20.10 大阪大学教授大学院薬学研究科

所 属：大学院薬学研究科分子薬科学専攻分子生物学分野
 専門分野：分子生物学、遺伝子治療学

記念講義

平成21年3月31日限りで定年等により退職される教授の記念講義を、日程等が決まったものについてお知らせします。

部局（講座・部門等）	氏名	日時・場所	講義題目
文学研究科 （文化形態論専攻日本学講座）	荻野美穂	3月3日(火) 13:00～15:00 待兼山会館2階会議室	身体と性を研究するということ
文学研究科 （文化表現論専攻日本語学講座）	真田信治	2月20日(金) 16:10～ 文法経講義棟 文41講義室	接触方言学の射程～ネオ方言、ヤマ トウチナーグチ、そしてクレオール～
文学研究科 （文化表現論専攻日本語学講座）	土岐哲	2月20日(金) 14:30～ 文法経講義棟 文41講義室	日本語音声の教育から研究へ
医学系研究科 （保健学専攻医療技術科学分野 医用物理工学講座）	春名正光	2月18日(水) 15:45～17:15 医学部保健学科第1講義室	光を支えにデバイスから生体へ
薬学研究科 （応用医療薬科学専攻 医療薬物科学講座）	東純一	3月6日(金) 14:00～15:30 薬学部2号館特別講義室	ヒトとクスリとの間を、フラフラと 30 有余年
工学研究科 （生命先端工学専攻 生物工学講座）	小林昭雄	3月9日(月) 13:30～15:00 工学研究科C3棟サントリー 記念館メモリアルホール	植物の工学的活用を志向して
基礎工学研究科 （物質創成専攻化学工学 領域反応化学工学講座）	上山惟一	3月10日(火) 15:00～16:30 基礎工学研究科 シグマホール	気液混相流動の骨組み
基礎工学研究科 （物質創成専攻物性物理工学 領域電子相関物理講座）	菅滋正	2月27日(金) 15:00～16:30 基礎工学研究科 シグマホール	放射光の輝きとともに歩んだ33年間 ～強相関からナノ磁性まで～
言語文化研究科 （日本語日本文化講座）	尾上新太郎	1月27日(火) 16:20～17:50 研究・講義棟（E棟） 204教室 [箕面キャンパス]	夏目漱石と乃木希典
情報科学研究科 （情報基礎数学専攻 離散構造学講座）	川中宣明	3月7日(土) 15:15～16:45 理学部本館D501大講義室	数学は笑う
高等司法研究科 （法務専攻）	吉田光碩	2月3日(火) 13:00～14:30 文系総合研究棟講義室401	金融危機と債権流動化・証券化
微生物病研究所 （附属難治感染症対策 研究センター）	本田武司	3月17日(火) 15:00～16:30 医学部銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール	細菌性腸管感染症とその周辺
接合科学研究所 （機能評価研究部門）	野城清	3月12日(木) 15:00～17:00 医学部銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール	大阪大学での45年間を振り返って - 人の出会い -
レーザーエネルギー学 研究センター （レーザー核融合学研究部門）	三間 囿 興	2月20日(金) 15:00～ レーザーエネルギー学研究 センター研究棟4階大ホール	抽象と写実の科学

平成21年3月31日で教授兼務を終了される理事・副学長の記念講義をお知らせします。

職名	氏名	日時・場所	講義題目
理事・副学長	高杉英一	3月4日(水) 16:00～17:30 文系総合研究棟講義室401	新発見と新理論の激動の40年 - 素粒子の世界に身をおいて
理事・副学長	門田守人	3月17日(火) 16:00～17:00 医学部講義棟A講堂	決断の外科学

第2回京都大学・大阪大学・神戸大学連携シンポジウム - 関西から世界へ:三大学連携による「知」の創出と発信 -

平成19年度から、大阪大学、京都大学および神戸大学の三大学が連携して、各分野における世界に通用する高度の人材を育成し、将来、関西の知的創造拠点を形成することを目指して、国際シンポジウムを開催しております。

昨年度は「情報科学」分野を対象とした大学間連携による高度人材育成に関するシンポジウムを行いました。今年度は「都市災害における企業の果たすべき役割」をテーマに取り上げ、下記のとおり開催いたします。

【テーマ】都市と地域の防災・減災～自助・共助・公助そして企業の「産助」～

【日時】平成21年1月14日(水) 10:00～17:30

【場所】大阪国際会議場12階特別会議室(大阪市北区中之島5-3-51)

プログラムの詳細・参加登録等は、シンポジウムホームページ(<http://www.3univ.jp/>)をご覧ください。

NHK土曜時代劇「浪花の華 ～緒方洪庵事件帳～」が始まります

大坂の名門蘭学塾「思々齋塾」で学ぶ緒方章(後の緒方洪庵)が、男装の麗人左近と共に、町に渦巻く陰謀を暴く青春痛快ミステリーシリーズ、NHK土曜時代劇「浪花の華 ～緒方洪庵事件帳～」が来年1月10日(土)より始まります。

本ドラマは、本学文学研究科出身の作家、築山 桂(つきやま けい)さん原作で、本学名誉教授の脇田 修先生(大阪歴史博物館長)が時代考証を、本学招聘研究員の米田該典先生が医事考証をされています。

【放送予定】2009年1月10日～3月7日(連続9回)

総合 毎週土曜 夜7時30分～8時00分

(再) BShi 毎週金曜 夜6時25分～6時55分

【出演】窪田正孝(緒方章)、栗山千明、池内博之、杉浦太陽、萬田久子、蟹江敬三 ほか



主人公緒方章を演じる窪田正孝さんは、10月にスタッフの人たちと適塾を訪れ、資料や当時の状況の説明に熱心に耳を傾けていました。

適塾の資料や外観の撮影も行われました。

(総務部評価・広報課広報・社会学連携事務室)

「ANNUAL REPORT OF OSAKA UNIVERSITY -Academic Achievement- 2007-2008」刊行

本学の優れた研究成果を国内外に発信する英文研究年報「ANNUAL REPORT OF OSAKA UNIVERSITY-Academic Achievement- 2007-2008」を11月に刊行しました（平成12年創刊・第9巻目）。本誌は全学の研究者からの応募論文のうち、人文・社会系、理学系、工学系、及び生物系の各分野から選ばれた論文100編を掲載し、その中でも特に優れた論文として論文10選、視覚的に読者の興味・関心を惹きつける論文としてグラフィックス24選をとりあげています。

教員の方にはすでに1部ずつ配布していますが、追加を希望される場合は所属部局の事務部または国際部国際連携課国際連携係（内線9572）までお知らせ下さい。

（国際部国際連携課）



国立美術館・国立博物館のキャンパスメンバーズに加入しました!!

大阪大学は、学生や教職員に文化や芸術、科学や歴史に親しむ機会を提供するために、美術館等に無料で観覧できるキャンパスメンバーズに加入しました。

12月1日から、国立美術館及び国立博物館において、学生証又は教職員証を提示することにより、以下の特典を受けることができます。

区分	国立美術館	国立博物館
制度内容	学校教育において美術館を有効に活用し、学生や教職員が美術に親しむ機会をより豊かにすることを目的とした制度です。	国立博物館と大学等とが連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する制度です。
利用施設	国立国際美術館（大阪市） 京都国立近代美術館（京都市）	京都国立博物館（京都市） 奈良国立博物館（奈良市）
主な特典	本学学生（科目等履修生、聴講生、研究生等を含む。）及び教職員は、学生証又は教職員証の提示により、次の特典を受けることができます。 所蔵作品展無料観覧（何度でも可） 特別展・共催展割引観覧（団体観覧料金（学生又は一般））	本学学生（科目等履修生、聴講生、研究生等を含む。）は、学生証の提示により、次の特典を受けることができます。 平常展の無料観覧（何度でも可） ゼミ等の引率教職員のみ、教職員証の提示により無料となります。 特別展の観覧料金割引 （奈良:観覧料金400円、京都:団体(学生割引)料金） ゼミ等の引率教職員のみ、教職員証の提示により団体（一般割引）料金となります。
利用期間	平成20年12月1日～	

キャンパスメンバーズ特典の詳細については、国立美術館・国立博物館のホームページでご確認ください。

（学生部学務課）

たけのこ保育園からのお願い

たけのこ保育園では、朝夕の送迎のための駐車帯を保育園南側の道路に取り付けました（地図参照）。この駐車帯は、送迎に自動車を利用される保護者等の方のための専用スペースとしており、一般の教職員、学生、外来者の方の駐停車はご遠慮いただいております。園児と保護者等の方が安全に乗り降りできるよう、駐車帯付近での減速、一旦停止などにご協力いただくようお願いいたします。



白線内が駐車帯



駐車帯

（たけのこ保育園・総務部企画推進課）

ちょっとしたお話 - バンコクから -

バンコク教育研究センター長
関 達 治

本号冒頭のトピックスで述べましたように、10月から11月にかけてのバンコク教育研究センター（以下バンコクセンターと略）は、三つの行事、東南アジア大学間学術交流協定大学副学長会議、第3回大阪大学バンコク公開講演会「続々 感染症から私たちの身を守る」、および大阪大学バンコク同窓会・旧大阪外国語大学咲耶会バンコク支部合同同窓会の開催と、三つの留学フェアへの参加のため火の車状態でした。今回は、この行事の中から、トピックスでは紹介できなかったいくつかのこぼれ話を紹介したいと思います。

これは奇遇か！：小町恭士駐タイ王国全権特命大使ご夫妻が鷲田清一総長夫妻などを夕食会に招待

ここでは、奇遇のお話。この9月に在タイ日本国大使が交代となり、小町恭士特命全権大使が着任されました。記憶にある方も多いと思いますが、小町大使は、平成16年11月から駐オランダ王国特命全権大使を勤められ、グローニンゲン教育研究センターの開所式典や大阪大学フォーラムでご挨拶や特別講演をしていただくなど色々とお世話になりました。今回は奇しくも駐タイ王国特命全権大使として、再び大阪大学がお世話になることとなりました。数多の在外公館のなかで、2度もご縁があるとは、本当に珍しいことと思われまふ。

今回の鷲田総長の来タイを申し上げたところ、是非とも夕食をとのお誘いを受け、10月30日、総長夫妻のほか、武田佐知子、辻 毅一郎両理事・副学長、菊谷 仁微生物病研究所長、木内行雄国際部長などが大使公邸での夕食会に参加しました。当日は、オランダでの思い出話やバンコクでの大阪大学との協力の話など和やかなひと時をすごしました。



日本大使公邸にて参加者集合（右から5,6番目が小町特命全権大使ご夫妻、その右隣が鷲田総長ご夫妻）

大阪大学へ留学したい！：鷲田清一総長がチュラロンコン大学で講演

10月31日(金)午後1時から4時まで、チュラロンコン大学文学部哲学科主催の特別講演会がポロムラチャグマリ一棟707号講義室で開催され、鷲田総長が「待つことの意味」と題して講演されました。



チュラロンコン大学で講演する鷲田総長



円卓を囲んでの熱心な討論（総長講演）

ヌアンノイ准教授より歓迎の挨拶の後、総長自身による実践哲学の簡単な説明が行われ、引き続き本講演が行われました。講演は日本語で行われましたが、石高真吾本学グローバルコラボレーションセンター特任助教が通訳を、本学卒業のバタラ・リーラブルット・カセサート大学工学部電子工学学科講師が通訳補助をしました。チュラロンコン大学の希望で、聴衆は50人に限定されましたが、60人ほどの聴講者が円卓を囲んで活発な議論を交しました。

さて、ここからが、誠にうれしくなるような後日談。11月20日行われた日本留学フェア（日本学生支援機構主催：バンコク・インターコンチネンタルホテル）でのこと。一

人、ちょっとふっくらした女学生が大阪大学のブースに来て言うには、「大阪大学の文学部の大学院に進学したいのですがどうすればいいですか?」「何で文学部なの?」(対応した私)「エエ、この間、鷲田先生の講演を聞いて是非とも阪大に行って勉強したいのです。」本当に、感激の一言でした。

こと左様に、モチベーションの高い留学生を集めるには、先生方の生のお話を聞かせることが大切であることづくづく判った次第です。バンコクセンターは、留学生の勧誘を主な仕事の一つとしていますが、先生方には是非ともタイにお越しいただき、研究に関する生の声を聴かせていただくようお願いいたします。

私達、頑張っています! : タイに留学中の本学学生も同窓会に参加



タイへ留学している本学留学生と武田副学長(右から3人目)と政岡外大咲耶会バンコク支部長(右から2人目)

本年度は、大阪大学の外国語学部タイ語学科から9名の学生さんがタイに留学しています。バンコクのチュラロンコン大学で1名、北部古都のチェンマイ大学、東北タイのコンケン大学でそれぞれ3名、バンコクに近いナコムバトムにあるシラパコーン大学で2名が熱心に学んでいます。バンコクセンターでは職員の出張などの機会を利用して、これらの学生さんたちと交流をはかっています。

巻頭のトピックスでもご紹介しましたタイ同窓会には、何とこの同窓会にチェンマイやコンケンから4名の学生が、長距離バスに乗って駆けつけてくれました。本当にうれし



留学フェアにチェンマイ大学の学生が集合

く思った次第です。また、ありのままのバンコクを見たいという総長の希望に、バンコクやシラパコーンの学生達はボランティアを買って出て街を案内してくれました。さすが阪大の学生だと自慢に思った一時でした。皆さんも、彼らが有意義な留学生活を送れるようにご支援ください。

一人あたり 8分30秒 : 日本留学フェアに出展

バンコクセンターでは、日本学生支援機構主催のチェンマイオーキッドホテルとバンコク・インターコンチネンタルホテルで開催された留学フェアに出展しました。チェンマイ会場では87人が、バンコク会場では98人が本学ブースで説明を受けました。それぞれの会場での対応は、一人平均5分と8.5分(対応窓口2つ)で、昼食を取る時間もない状況でした。説明を受けられなかった人もかなりいると思われます。これに先立ち、ナレスワン大学(日本国大使館広報文化部からの要請)とチェンマイ大学(同大からの招へい)に参加し、大阪大学の紹介と留学説明をしました。1月22日には、日本国大使館のアレンジでコンケン大学での留学説明会に参加します。たくさんの留学応募があればいいのですが、やはり奨学金が得られるかが問題のようです。



留学フェア(バンコク)での説明風景。あまりの忙しさに写真を撮る時間ありませんでした。これは朝一番。



CMU留学セミナー野外活動でのパネルディスカッション:
これはタイならではの風景
本学などの日本人留学生が折り紙コーナーを出展。

バンコクセンターをはじめ海外拠点センターを是非ともご利用ください。皆様のご利用が何よりのご支援です。教職員一同からのお願いです。

ホーチミン市国家大学

(Đại học Quốc gia Thành phố Hồ Chí Minh
Vietnam National University - Ho Chi Minh City)



ホーチミン市国家大学は、1996年に、ベトナム最大の都市ホーチミン市において、既存の9つの国立大学を再編統合して設立された大学です。同大学は、首都にあるハノイ国家大学と共に、「国家大学」として独自の裁量権を持っています。2008年現在、同大学には、工科大学、自然科学大学、社会人文科学大学、国際大学、情報技術大学の5つの大学、環境・資源研究所、直屬学部である経済学部、その他、外国語センターをはじめとする幾つかのセンターが傘下にあり、ベトナム屈指の総合大学であるといえます。

同大学傘下の社会人文科学大学とは、旧大阪外国語大学（現外国語学部・世界言語研究センター）との間で頻繁に、研究交流、留学生の受け入れ、送り出しが行われてきました。また、理科系の分野での交流も盛んで、基礎工学部で

は学生交流が、工学部では研究交流が行われてきたほか、理学部においても、開始見込みの交流プログラムがあります。

大阪大学とホーチミン市国家大学は、2007年9月に全学レベルの学術交流協定を締結しました。これによって、分野間を横断した複合的な形での交流も可能となり、今後、協力関係の発展が期待されます。

ウェブサイト：<http://www.vnuhcm.edu.vn/>



ボランティア活動中の学生達

編集後記

今月号の表紙に使用いたしました懐徳堂旧址の碑は、地下鉄御堂筋線淀屋橋駅の近くにありますが、もう一つの精神的源流である適塾もすぐ近くにあり、これらのある中之島地区は大阪大学の始まりの地といえるのではないかと思います。（右図参照）

大阪大学21世紀懐徳堂の初めてのシンポジウムは、その中之島にある大阪市中央公会堂で開催されました。鷲田総長、武田21世紀懐徳堂学主（理事・副学長）を始めとする多くの参加者が大阪について熱い議論を交わしたタウンホールミーティングは、市民と大学がともに地域社会を盛り上げていこうという「社会学連携」の姿そのものでした。

（瀬尾）



ラグビー部

チームで勝ち取るトライ



ラグビーというスポーツは痛い、怖いといったイメージをお持ちの方が多いでしょう。サッカーや野球にはないぶつかり合いを見ると自分にはできないと考えがちですが、実はラグビーはどんな人でも楽しめるスポーツなんです。

激しくぶつかり合うプレーは危険だとよく思われていますが、これこそラグビーの大きな魅力です。最低限のトレーニングでケガは防げますし、体格で劣る小さな選手が大きな選手を倒すことも少なくありません。一回のタックルでゲームの流れが大きく変わることもあり、ラグビーにおいてはとても重要なプレーです。さらに、正面からぶつかり合うのが苦手な小柄で俊敏な選手は、相手をステップで翻弄して抜き去ります。ディフェンスの薄い所へパスを回したり、キックで裏をついたり多彩なテクニックで前進する事も可能です。

このようにラグビーのプレーはパワフルなものからテクニカルなものまで様々です。自分の苦手な分野はチームメイトに補ってもらったり自分の得意な方法でトライを狙っていけばチームの前進に貢献できるスポーツなのです。これがラグビーにおけるチームプレーの醍醐味といえるでしょう。

阪大ラグビー部は関西の国公立大学NO.1という目標を見据え、まずはリーグの昇格を目指し日々練習を行っています。プレー中は上下関係なく意見をぶつけ合い、厳しいながらも活気ある練習でラグビーを楽しめるよう心がけています。これからも目標に向けてチーム全員で支えあい前進して行こうと思います。

主将 河本 亘司(基4年)

コメント

「仲間とチームで力をあわせた経験はかけがえないものです。大学でラグビーを始めた先輩もいっぱい居るので、少しでも興味のある人はいつでもグラウンドへ来て下さい！」



練習場所：豊中キャンパスグラウンド

練習日時：火・水・金 17時～20時

土 9時～12時

日 公式戦、他校との試合、
合同練習など

部員数：選手 37名 マネージャー 7名

連絡先：正田英徳(主務)

ju6079sh@ecs.cmc.osaka-u.ac.jp

クラブHP：<http://hrugby.web.fc2.com/>

ロボット演劇プロジェクト「働く私」公演開催



11月25日(火)に、豊中キャンパス内にある21世紀懐徳堂多目的スタジオにおいて、ロボット演劇プロジェクト「働く私」が開催されました。

この企画は大阪大学21世紀懐徳堂が主催し、コミュニケーションデザイン・センターの協力を得て、工学研究科知能・機能創成工学専攻における企業と連携したPBL (Project based Learning) による大学院教育の実践的演習の成果として発表されました。監督・脚本・演出をコミュニケーションデザイン・センターの平田オリザ教授、テクニカルアドバイザーを工学研究科の石黒 浩教授、ロボット側監督・プロデューサーを黒木一成氏(株式会社イーガー取締役会長)が努めました。

本プロジェクトは、近未来に実現されるロボットとの関わり方を人々に見せ、ロボットに対するイメージを現実のものに近づけるとともに、感性価値の観点からロボットのみならず、プロダクトデザインを考える上で、今後、重要視されるであろうモーションデザインに関するコミュニケーションロボットを用いた演劇に取り組むことによる検討を目的としたものです。



制作者、俳優、学生スタッフ、そして wakamaru

当日は、21世紀懐徳堂多目的スタジオにひな壇状に客席(90席)が特設され、11時、14時、19時の3回行われましたが、各回とも満席になり、観客はロボットと俳優が繰り広げる劇に見入っていました。

今回は試演ということで上演時間は20分間でしたが、働く意欲を失ったロボットに人間が気遣ったり、ロボット同士の会話があったり、間を重視した心の動きが表現されていました。

また、この模様は新聞各紙やニュース等でも取り上げられました。

今後は90分程度の長編作品として一般劇場での上演が計画されているとのことで、次回作品が期待されます。

(大阪大学21世紀懐徳堂)

阪大NOW No.107 2008 12月号 2008年12月20日発行

編集・発行 大阪大学総務部評価・広報課広報・社会学連携事務室 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1
TEL: 06(6879)7017 FAX: 06(6879)7156
ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp/>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせ、記事の提供等がありましたら、下記までお寄せ下さい。
E-mail: soukousyagakukouhou@ns.jim.osaka-u.ac.jp